

# ＝アルゼンチン＝ の「家族」に会いに行こう!

## 平成29年度海邦養秀ネットワーク構築事業 報告書



# はじめに

はいたい、ぐすーよー ちゅーうがなびら。

沖縄県民の海外移住は1899年のハワイ移民に始まり、20世紀には多くのウチナーンチュが新天地を求めて海を渡りました。今日では世界各地に約42万人の県系人が各分野で活躍しており、沖縄と世界の架け橋として国際交流・協力の場で大きな役割を果たしております。

海邦養秀ネットワーク構築事業は、沖縄県内の15歳から25歳までの学生を海外の沖縄県人会へホームステイ派遣し、海外県系人の雄飛の精神や国際感覚を学んでもらうとともに、海外の同世代のウチナーンチュとの友情を育むことで、将来に渡ってウチナーネットワークを発展させていくことを目的としています。2007年のスタートから2016年までに7か国13県人会へ108名の若者を派遣してきました。

2017年は、翌年に沖縄県人移住110周年を迎えるアルゼンチン共和国在亜沖縄県人連合会の元へ大学生及び高校生を各5名、計10名を派遣しました。

アルゼンチンでは、日系人に占める沖縄県系人の割合が7割を超えられています。かつてウチナーンチュとしての誇りを携え同国に渡った先人達は、言葉も文化も異なる中、現地の需要を捉え洗濯店経営などで成功を収め、今日の日系人社会の基礎を確立しました。今回、参加者達は、1世の方々へのインタビューや代々続く伝統家業の現場訪問を通して、沖縄を飛び立った先人達の高い志や不屈の精神を学びました。また、現地でのプログラム実施に当たっては、常に県系の若者達が同行してくださり、安心かつ楽しい、笑顔耐えない2週間を過ごしながら、かけがえのない友情を育みました。さらに、ホストファミリーの皆様には、本当の家族のように温かく、深い愛情を持って接していただきました。「いちやりばちよーでー」という黄金言葉が、沖縄から遠く離れたアルゼンチンで確かに受け継がれ、双方のウチナーンチュを強く結んでいることに感銘を受けました。

アルゼンチンを発つ前夜には、沖縄県人連合会の皆様に盛大な送別会を開いていただき、参加者からはエイサーや空手演武などを目の当たりにして、県系人の沖縄に対する熱い想いを肌で感じ、魂が震えたとの報告がありました。また、自らが沖縄の文化を継承していく責務を自覚したとの声もありました。地球の反対側で、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーの表現に接したことや、沖縄のソフトパワーが秘める可能性を実感したことは、参加者達にとって生涯記憶に残る体験になったことと思います。

この度の研修で、参加者達が得た印象深い数々の経験や、アルゼンチンの方々と育んだ強い絆は、世代を超えてウチナーネットワークを発展させていくための礎となることでしょう。実際、参加者達は、本研修後に沖縄を訪れているウチナーンチュ子弟留学生の皆様と積極的に交流を図るなど既に活動を始めており、将来は多くの県民をウチナーネットワークに繋げるリーダーとして活躍してくれるものと期待しております。

結びに、在亜沖縄県人連合会玉城智会長、沖留会奥間オマル会長及びホストファミリーの皆様を始め、本研修に御協力いただいたアルゼンチン及び沖縄の関係者の皆様には、前途有望な沖縄の若者達に、次代のウチナーネットワークの発展に資する貴重な体験を与えていただいたことを心から感謝申し上げます。

いっぺーにふえーでーびたん。Muchísimas gracias.

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会  
会長 山城 貴子  
(沖縄県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監)

# 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| はじめに.....                             | 1  |
| 参加者 & 引率者.....                        | 3  |
| 事業スケジュール.....                         | 4  |
| 事前研修・報告会.....                         | 5  |
| 本研修アルゼンチン共和国派遣 8月14日(月)～8月29日(火)..... | 7  |
| 現地活動日誌 ～アルゼンチン本研修にて学生が綴ったブログより～.....  | 8  |
| 参加者感想.....                            | 22 |
| 行動宣言.....                             | 33 |
| 派遣後の活動～研修での学びを学校の授業やイベントで発信し活躍！～..... | 34 |
| 派遣後アンケート.....                         | 36 |
| ホストファミリーアンケート.....                    | 41 |
| 編集後記.....                             | 45 |



# 参加者 & 引率者



末吉 利成  
琉球大学6年次



大城 綾佳  
名桜大学4年次



比嘉 友梨子  
名桜大学2年次



比屋根 愛海  
沖縄国際大学2年次



新垣 萌  
沖縄キリスト教短期大学1年次



国吉 優那  
知念高等学校3年



新里 恵梨  
那覇国際高等学校2年



玉城 優  
名護高等学校2年



立津 海翔  
開邦高等学校2年



中川 僚麻  
沖縄尚学高等学校1年



玉代勢 興順  
沖縄県 交流推進課



ファルコニー  
アレハンドラ  
沖縄県 交流推進課



新里 聡  
(株)国際旅行社



諸見里 一壽  
(株)国際旅行社



普久原 サオリ  
沖縄NGOセンター



根路 銘マリアソルダ  
沖縄NGOセンター

# 事業スケジュール

| 日程                   | 内容            | 場所   |
|----------------------|---------------|--|
| 5月12日(金)             | 参加者募集告知開始     |  |
| 5月21日(日)             | 参加者募集説明会      | JICA沖縄国際センター多目的ルーム                         |
| 5月26日(水)             | 応募〆切          | 沖縄県庁                                       |
| 6月 8日(木)<br>～9日(金)   | 参加者選定委員会      | 沖縄県庁                                       |
| 6月14日(水)             | 参加者決定         |  |
| 7月 8日(土)             | 第1回事前研修       | JICA沖縄国際センターセミナールーム201AB                   |
| 7月22日(土)<br>23日(日)   | 第2回事前研修(宿泊学習) | JICA沖縄国際センターセミナールーム201AB<br>宿泊:ぎのわんセミナーハウス |
| 8月 5日(土)             | 第3回事前研修       | JICA沖縄国際センターセミナールーム201AB                   |
| 8月 14日(月)<br>～29日(火) | 本研修           | アルゼンチン共和国<br>(在亜沖縄県人連合会)                   |
| 9月 9日(土)             | 事後研修          | JICA沖縄国際センターセミナールーム201AB                   |
| 10月 7日(土)            | 報告会           | JICA沖縄国際センター多目的ルーム                         |
| 10月～ 1月              | 報告書作成         |  |



# 事前研修・報告会

## 第1回事前研修:7月8日(土)

内容:保護者含めての全体オリエンテーション、チームビルディング、スペイン語学習、課題共有「アルゼンチン国の紹介」、第2回事前研修に向けて

協力者:與座宏章(沖縄アルゼンチン友好協会会長)、天願小百合と前外間レオネル(アルゼンチン出身ウチナーンチュ子弟留学生の2人)



## 第2回事前研修:7月22日(土)・23日(日)(宿泊学習)

内容:課題共有「ファミリーヒストリー」「身近な移民関係者の紹介」「アルゼンチンでの訪問先」、沖縄移民学習、OB・OGとのゆんたくタイム、元沖留会会長の佐久田アンドレスによるアルゼンチンとスカイプで繋がろう、スペイン語学習、ホストファミリーへの手紙

協力者:喜久里暎、井上泉、島袋りおな、小林純平、本田彩華、西表里鶴、宮城亜希(OBOGの7名)、佐久田アンドレス(元沖留会会長)、眞壁由香



## 第3回事前研修:8月5日(土)

内容:課題共有「身近な移民関係者」、沖縄の歴史と移民学習、県内在住アルゼンチン出身のみなさんとゆんたく、沖縄県の「世界のウチナーンチュの日」に向けた取組について、「世界のウチナーンチュの日」について全体で意見交換、

決意宣言、アルゼンチンで大切にしたい事確認

講師：山城章子(琉球大学非常勤講師)

協力者：比嘉アンドレス(世界ウチナーンチュの日)、佐久田アンドレス(元沖留会会長)、又吉パトリア、大城セバスチアン、花城カリナ(県内在住アルゼンチン出身のみなさん5名)



### 報告会(パネル形式):10月7日(土)

JICA沖縄ニライホール多目的室にて報告会を行いました。研修参加者のご家族や先生を含めて約50名の方々が来場しました。研修参加者と一緒にお・お・おの皆さんにも参加してもらいました。事前に準備した質問を司会がボードに出し、その場で参加者が自分のボードに答えを書き、その答えについて司会からさらに問いかけて、参加者に自分の想いを伝えてもらいました。楽しい雰囲気の中で参加者らはとてもリラックスしてひとりひとりしっかりと自分の言葉で想いを伝えました。彼らのキラキラした表情で堂々と語る姿が会場のみなさんに感動を与えていたことを、終了後の感想から伺うことが出来ました。事前研修や事後研修において年度を越えて参加者同士の関わりを持たせることが出来ました。



# 本研修アルゼンチン共和国派遣

8月14日(月)～8月29日(火)

| 日付       | 現地時間  | 訪問地                     | 交通機関                               | 行程  | 備注                 |
|----------|---|-------------------------|------------------------------------|---|--------------------|
| 8月14日(月) | 10:05<br>12:30<br>13:35<br>14:25<br>16:25<br>16:15<br>22:11 | 那覇<br>羽田<br>成田<br>アトランタ | NH2158<br>リムジンバス<br>DL296<br>DL101 | 那覇空港出発 10名+3名にて出発<br>羽田空港到着<br>羽田空港発リムジンバスにて成田空港へ<br>成田空港到着後搭乗手続<br>デルタ航空にてアトランタへ<br>アトランタ到着【乗継】<br>アトランタ→アルゼンチンへ | 機内                 |
| 8月15日(火) | 9:20  | アルゼンチン<br>ブエノスアイレス      |                                    | アルゼンチン到着<br>現地受入先 (在亜沖縄県人連合) 合流   | 在亜沖縄県人連合<br>ホームステイ |
| 8月16日(水) |   |                         | 市バス、MRT等                           | A M 各ホームステイ先にて休養<br>P M ブエノスアイレス市内<br>カサ・デ・ローサ、大聖堂、Galerians Pacifica オペリスク、国会議事堂                                 | 〃                  |
| 8月17日(木) |   |                         | 市バス、MRT等                           | 日中 ブエノスアイレス市内<br>REQUIESCANT IN PACE、国立美術館、アルゼンチン大学、日本庭園<br>夜 在亜県人会との懇親会  | 〃                  |
| 8月18日(金) |   |                         | 市バス、MRT等                           | 日中 ブエノスアイレス市内<br>BOCA地区、らぶらた報知、サンテルモマーケット、ドルレゴ広場<br>夜 各ホストファミリー、沖留会と交流会   | 〃                  |
| 8月19日(土) |   |                         |                                    | 終日 在亜沖縄県人会主催「こどもの日」イベントの運営手伝い   | 〃                  |
| 8月20日(日) |   |                         | 貸切バス                               | 終日 うるま図 訪問<br>日系人ヘインクビュー、沖留会メンバーと親睦サッカー大会・お菓子作り体験   | 〃                  |
| 8月21日(月) |   |                         | 列車                                 | 終日 ブエノスアイレス郊外へ<br>プエルト・デ・フルート(市場)、観光船乗船、中華街   | 〃                  |
| 8月22日(火) |   |                         | 市バス、MRT等                           | 終日 ブエノスアイレス市内<br>セナファイオ(石碑)、センテナリオ広場(公園)、日亜学院   | 〃                  |
| 8月23日(水) |   |                         | 市バス、MRT等                           | 日中 ブエノスアイレス市内<br>コロン劇場(希望者のみ) or 周辺散策、現地デパート、AUN(日系学生会)ボランティア   | 〃                  |
| 8月24日(木) |   |                         | 貸切バス                               | 終日 ブエノスアイレス郊外へ<br>バレラ地区(日系人経営のEL-JAPON:靴店/時計店/楽屋見学)、花卉農場、種・苗出荷工場  | 〃                  |
| 8月25日(金) |   |                         | 市バス、MRT等                           | 日中 ブエノスアイレス市内<br>2期に分かれてのクリーニング店見学、El Ateneo(本屋)、日亜学院<br>夜 沖留会メンバーとカラオケ交流   | 〃                  |
| 8月26日(土) |   |                         | 市バス、MRT等                           | A M ブエノスアイレス郊外へ<br>Retiro地区、プエルト・マデロ<br>夜 県人会、沖留会、ホストファミリーとの発表会 送別会   | 〃                  |
| 8月27日(日) | 16:30<br>20:20  |                         | DL110                              | 日中 ホームステイ先にて荷物整理<br>アルゼンチン空港到着 搭乗手続<br>アルゼンチン空港出発   | 機内                 |
| 8月28日(月) | 5:44<br>11:53   | アトランタ                   | DL295                              | アトランタ空港到着【乗継】<br>アトランタ空港発   | 機内                 |
| 8月29日(火) | 14:45<br>18:30<br>21:20                                     | 成田<br>那覇                | NH2159                             | 成田空港到着【入国審査・乗継】<br>成田空港出発<br>那覇空港到着   |                    |



# 現地活動日誌

～アルゼンチン本研修にて学生が綴ったブログより～

1日目:8月14日(月)

みなさん Buenos Días !

海邦養秀ネットワーク構築事業です。3回の事前研修を経ていよいよ出発です。

今日のスケジュールは出発式を行い、その後飛行機でアトランタへ向かう流れになっています。

出発式の様子です。



出発式には沖縄タイムスさんや琉球新報さん、QABさんなどメディアの方がたくさん来てくれました!

1人1人の意気込みや激励の言葉をもらい、皆がアルゼンチンへの出発を実感した日でした! \(\^^\)/  
沖縄那覇空港を出発して羽田空港から成田空港までリムジンバスで移動しました。

成田から国際線で約12時間のフライトを終えてついた先はアメリカ アトランタ空港です!

飛行機は食事も美味しくて映画も見放題でした!



ずっと飛行機に住んでいたい...とは思いませんでした。とても疲れた1日でしたがプログラムは始まったばかり! たくさんの経験をしてきます!

以上、アトランタからお送りいたしました!

追伸:メンバーは全員元気です! 今からアルゼンチンブエノスアイレスへ向けて約10時間のフライトです。

2日目:8月15日(火)

プログラム2日目です! 2週間後にはアルゼンチン人になれるかも! ?

ブエナスノーチェス!

こんばんわ! ブエノスアイレスの現在の時間は21:59となっております。日本ではお昼の12時頃です。

8月15日のスケジュールは①アトランタからブエノスアイレス②空港から在亜沖縄県人連合会(以降沖連と記載します)③各ホームステイ先に移動という形になっています。

①アトランターブエノスアイレス(移動)

飛行機の内容は昨日も書いたので省略しますm(\_)\_m  
ブエノスアイレスの空港に着いたら沖連の方が出迎えてくれました。



ロストバゲージのため予定よりだいぶ遅れてしまいましたが、温かく迎えてくださりありがとうございます！  
いざ、外に出ると目の前にアルゼンチンが広がっていました。

迎えてくださった沖連の皆様と一緒にバスで沖連へ向かいました！

### ②在亜沖縄県人連合会

最初に沖連の施設見学をして、建物の中にある「けんれんかい」という所で昼食を食べました。

1階は催し事に使うホール、2階は事務室であつたり教室に使うホール、3階も教室に使うホール、4、5階は何もないそうです。

建物はとても広い！の一言に尽きます。



昼食は焼きそば、アルゼンチン風マーボー豆腐、じゅうしい、味噌汁…など沢山ありました！個人的に味噌汁がとてもおいしかったです。久しぶりというものもあったのかもしれませんが、¡Qué rico! ケ・リコ!(最上級に美味しい)でした！

本当にありがとうございますm(\_)\_m

### ③各ホームステイ先

私のホームステイ先は仲宗根ゆたかさん宅でした。着くと真っ先にお風呂に入らせてもらいました。

約1.5日ぶりのお風呂に感動しました。

ゆたかさん宅はクリーニング屋を営んでおり、仕事の紹介をもらいつつ移民のお話や地元のお話をさせていただきました。



夕食はアルゼンチンのスープ、牛肉(メロニーサ)、ポテトサラダ。とても美味しかったです。

今日も初体験の連続で驚いてばかりの私たちメンバーでしたが、とても楽しく充実した日を送っています(まだ2日目…(良い意味で))

ホームステイを受け入れてくださった方々、沖連のメンバーに感謝の気持ちを持ってこれからのプログラムを進めていきたいと思ひます。

以上でブログを終わります。Gracias

### 3日目:8月16日(水)

沖縄の皆さんこんにちは！今日は、プログラム3日目です。

時差ボケを12時間以上寝るといふカ技で克服、県系の若者が引率して下さったアルゼンチン見所ツアーその①に行ってきました！



本日は、大統領府、カテドラル、フロリダ通り、百貨店、オベリスコ、国会議事堂を巡りました。

引率者の中に、東京の大学で移民の研究をされている神奈川ご出身の方がいらっしゃいました。

その方は今年の9月からアルゼンチンのブエノスアイレス大学で勉強を開始される予定ということですが、東京の大学で移民の研究を進める内におばあ様の出身地である沖縄に興味を持つようになったという事でした。

去年開催された第6回世界のウチナンチュ大会に参加した際、ウチナンチュの自覚が出てきたとの事で、そこから自らのルーツの1つであるアルゼンチンに行ってみようと思いついたそうです。

素晴らしいですね！

このような出会いがあったのも海邦養秀ネットワーク構築事業を企画してくださった皆さん、また支えてくださっている皆さん(まさに今この記事を読んでいるあなたもそうです！)のお陰です。

この場を借りてお礼申し上げます。

#### 4日目：8月17日(木)

Hola!!

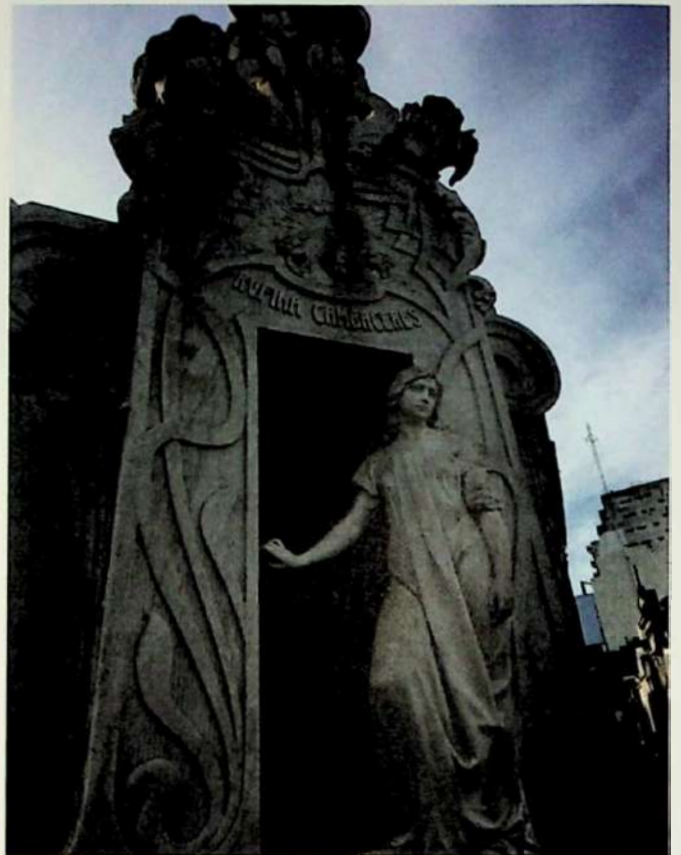
大きな墓地(レコラータ)に行きました。

そこには、沖縄のシンプルなお墓とは違い、石造等が立っていました。1つ1つのお墓にもストーリーがまつまわっていて、アルゼンチンの歴史もそこで学ぶことができました！！

そして、今日の1番の収穫は現地のウチナンチュと、新しく繋がりが増えたことです！

在亜沖縄県人連合会の会長の皆様、そして現地の若者と意見を交換できたことはとてもよかったです。これから始まるアルゼンチンの日程も、みんなで協力したくさん吸収していきたいです！

それでは、chau !!チャウ(アルゼンチンではバイバイを意味します。)



#### 5日目：8月18日(金)

アルゼンチンにきて5日目となりました！毎日が充実して時間があっという間に感じています(o^^o)！

今日は、ボカ地区とサッカー場とラプラタ報知に行きました。



ボカ地区は、カラフルな建物でとても可愛かったです！お家がカラフルなのは、港で余ったペンキを家に塗ったそうです。そのお家はスペイン語でコンベンティシヨ (conventillo) といいます。昔は低所得者が住んでいた地区です。次にサッカー場に行きました。



この写真はサッカー場入り口です。

昼食は、パスタや肉やタコスを食べました！食後のデザートも美味しかったです(\*´▽`)



その後、1897年に建てられたラプラタ報知新聞社に行きました。ラプラタ報知はアルゼンチン唯一の日系の新聞社です！



夜は、自己紹介と特技紹介をホストファミリーの前で披露しました。とても楽しい時間になりました。



残りの時間も大切にしてたくさん交流して行きたいです！！



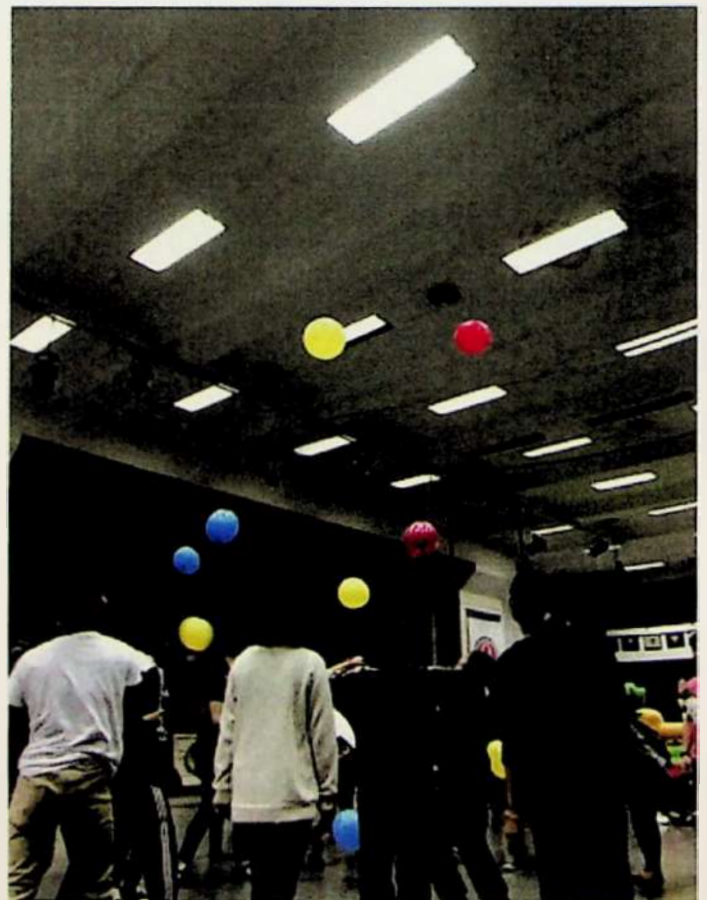
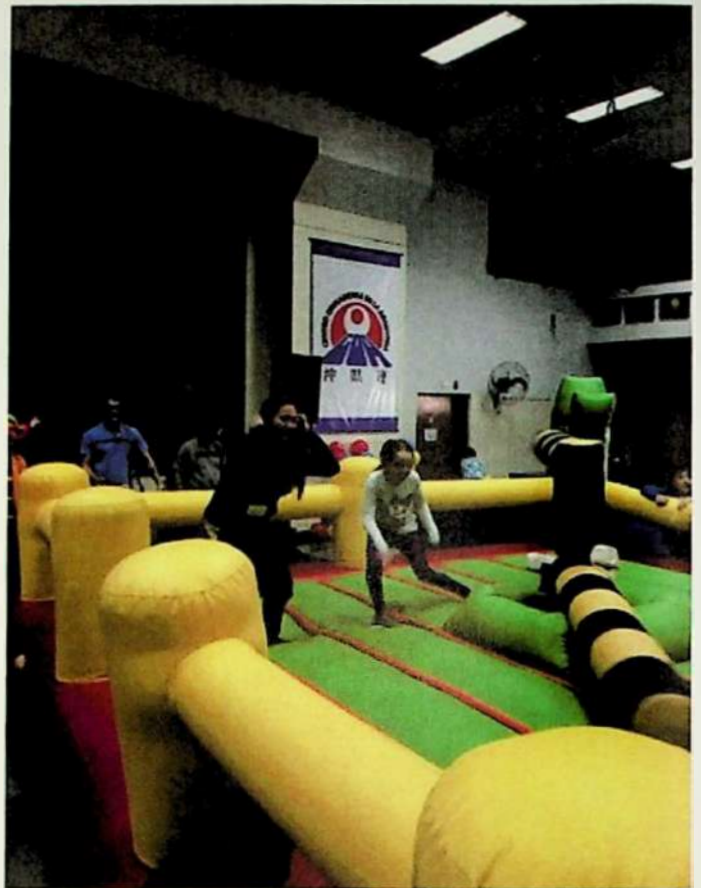
### 6日目：8月19日(土)

今日で、早くも6日目です！午前中は市内観光する予定でしたが、あいにく天候が悪く、中止になりました。午後は明日が子供の日ということで県人会でイベントのお手伝いをしました。

お手伝いをしているうちに、いつの間にか自分たちも一緒になって遊んでしまいました。

とても楽しくて、たくさんの子供とも交流することができました！

さて、明日はうるま園でバーベキューやスポーツをします！楽しみに！！





7日目：8月20日(日)

サッ・サッ・アサード

こんにちは！

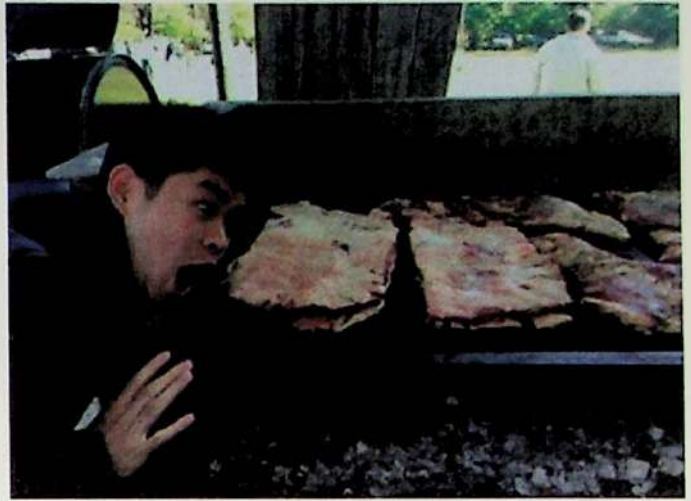
早くもアルゼンチン研修7日目ですが、アルゼンチンの反対側にいる沖縄の皆さん！聞こえますか！？

今日はうるま園に行きました！

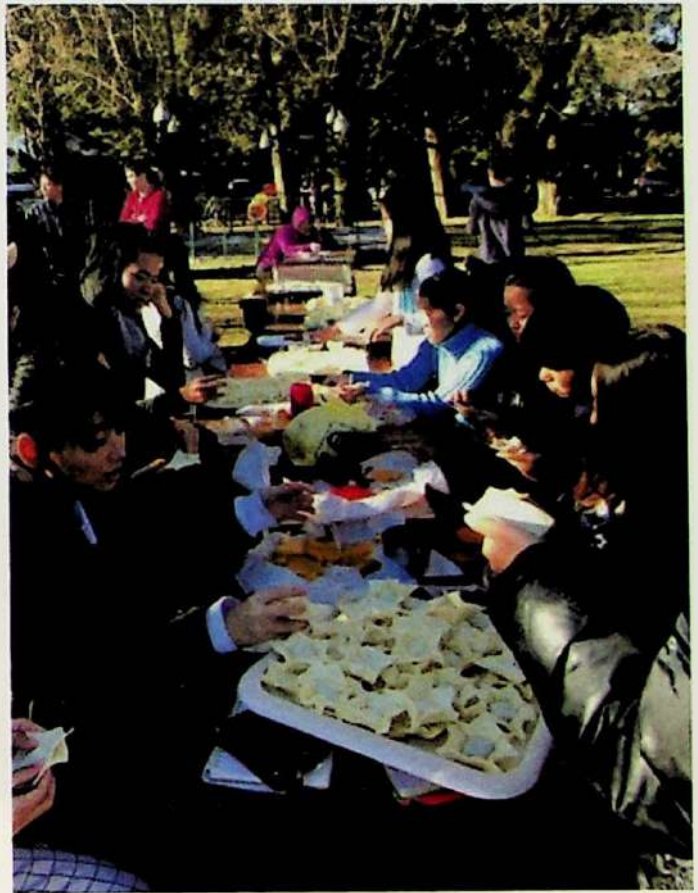
アルゼンチンの有名なスポーツでお馴染みの“サッカー”をしました！（みんなレベル高すぎます）

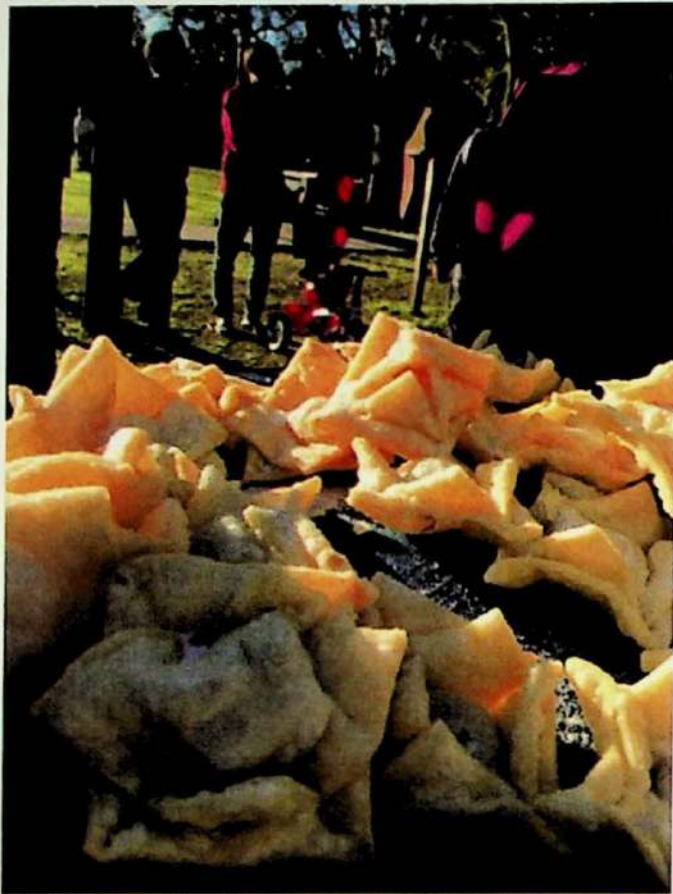
大人も子どももみんな真剣に闘いました！

アサードも食べました！



その後、みんなでアルゼンチンを代表するデザートパステリートを作りました！

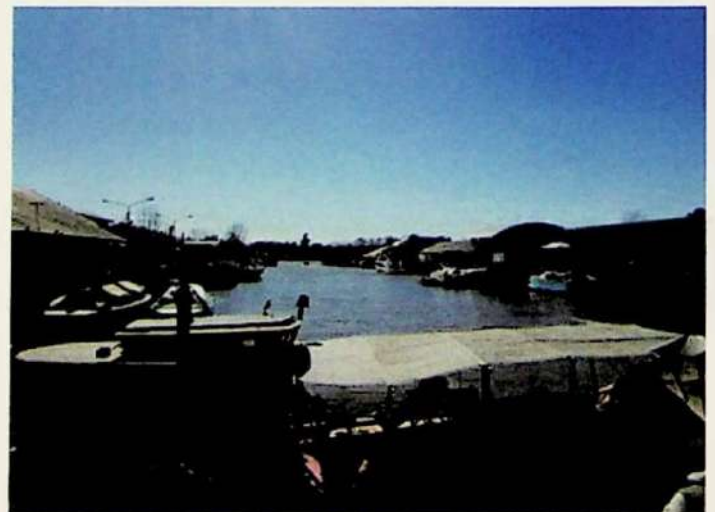
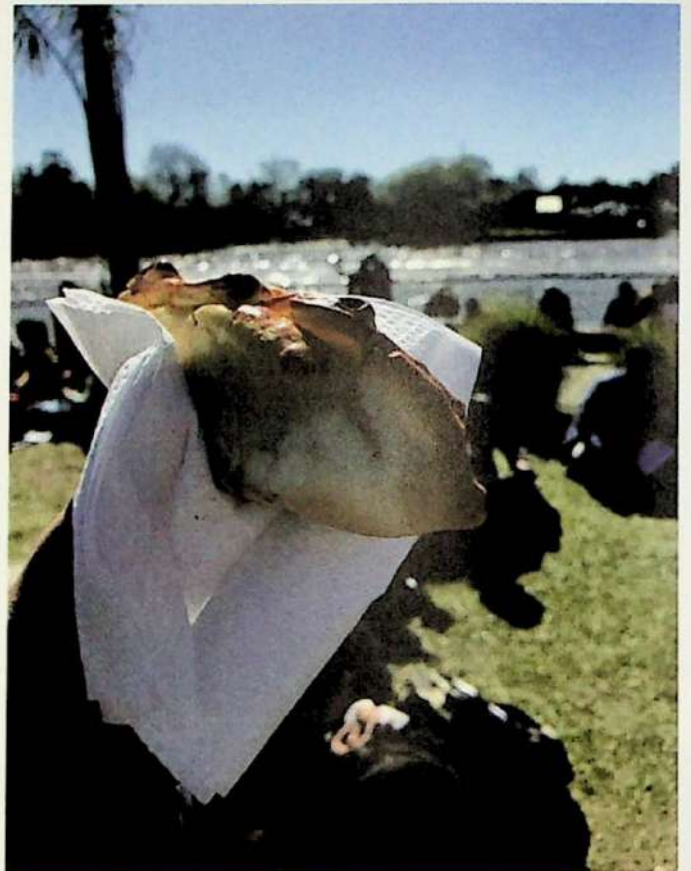




ダというアルゼンチン料理を県人会の方達と食べたり、中華街行ったりしました！！

今日もとても充実した日を過ごせました！

県人会の方々に毎日感謝でいっぱいです(\*´∩`\*)♪



### 8日目：8月21日(日)

今日で早くも1週間。時間がとても早く感じています！！！！

今日は朝早くから集合してみんなで電車に乗りました。そして、通称フルーツ市場というところに行きました。昔そこでは、フルーツなどを多く取り寄せて港で市場をやっていたそうです。それが名前の由来みたいです(\*´∩`\*)

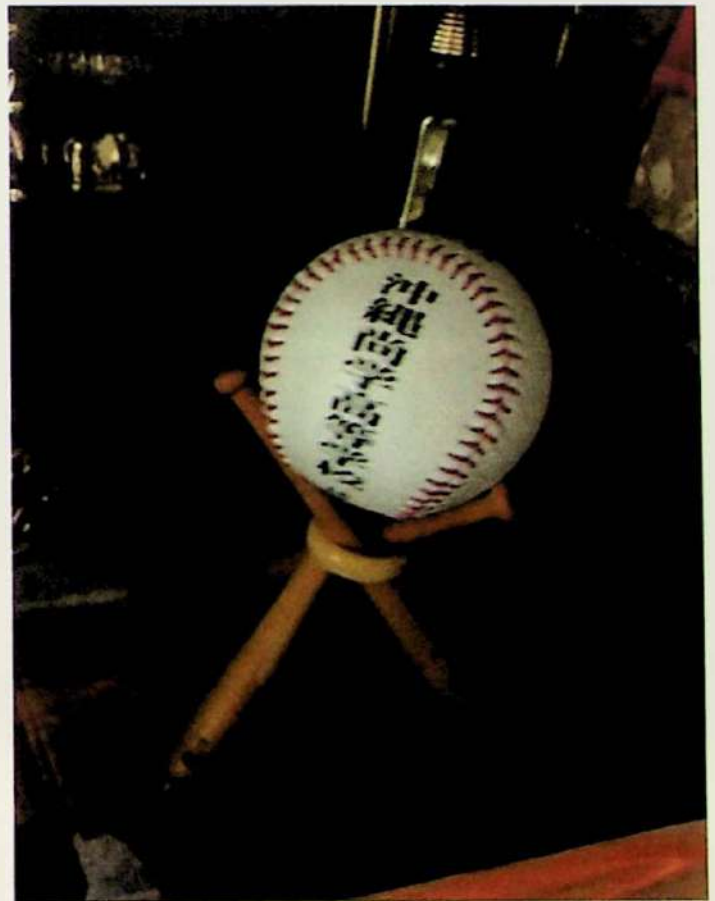
そして、そのあとは買い物したり、お昼にエンパナー



在亜沖縄県人連合会に自分の通っている学校、沖縄尚学のボールがありました！アルゼンチンと日本は距離は遠いけど心は繋がっているのだなと思いました！

### 9日目：8月22日(火)

午前は公園に行き、午後はみんな楽しみにしてた日亜学院を訪れました！日亜学院の学生は午前は普通の学校と同じ授業を受けていますが、火曜日と木曜日の午後は年齢に関係なく、一人一人のレベルに応じた日本語クラスを受講しています。レベルは1～8まであり、今回は5～8の学生と交流しました！交流内容はクラスで異なりお菓子を食べながら話をするクラスやタンゴを踊ったりしているクラスなど様々でした！



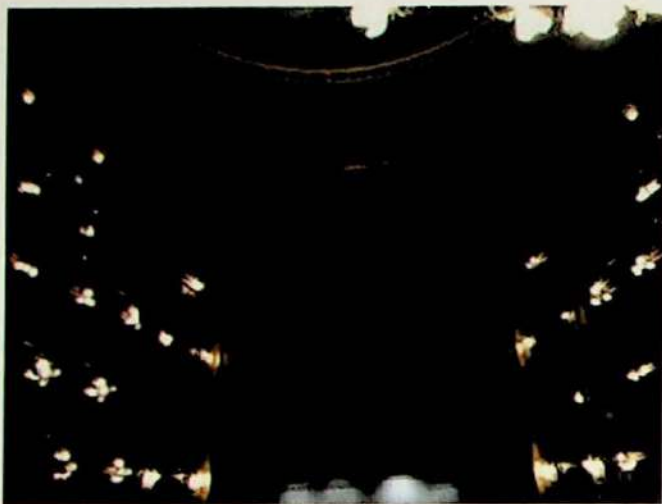
### 10日目：8月23日(水)

Hola !

毎日忙しいですがとても充実した日々を送っています！

本日午前中は、世界三大劇場の coron 劇場を見学しました。





スペイン語の説明の元でしたが、アレハンドラさんや  
沖連の方が説明してくれて、たくさんのことを学びまし  
た。

午後はおじいちゃん、おばあちゃんが集まるゆいまー  
る荘へ行きました。みんなで踊ったりお話をして、とて  
も楽しい時間を過ごすことができました。

人によって、いろいろ思いを沖縄に抱いているという  
ことが分かりました。



琉球國祭り太鼓も鑑賞しました。地球の裏側にある  
アルゼンチンで、こんなに迫力のあるエイサーをやっ  
ているのかと、感動しました。



残り少ない時間ですが、楽しんで行きます¥( ^o^ )/

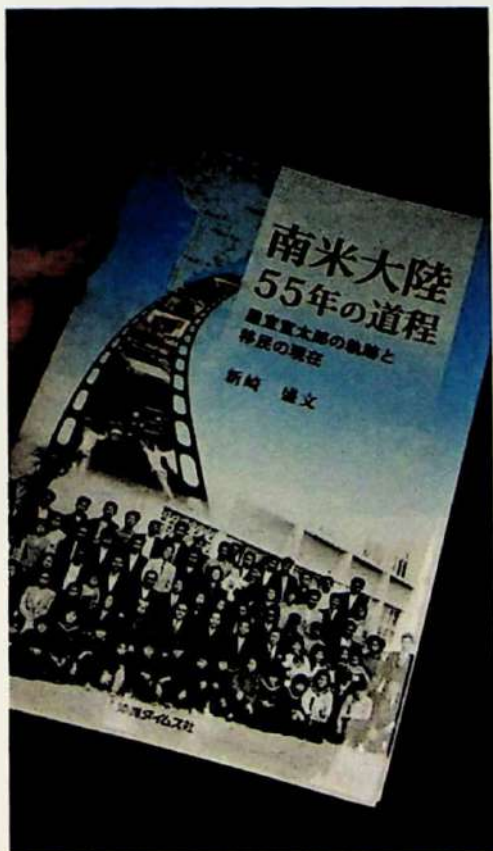
11日目:8月24日(木)

朝の集合はいつもより早く7時30分集合でした。

アルゼンチン移民には欠かせない花卉業と靴屋の見学をするため、車で約2時間かけて現地へ向かいました。

靴屋さんでは、みんな大好きニコラスさんのお宅へ！おばあちゃんの屋宜よしこさんにインタビューをしました！

移民に関する本『南米大陸55年の道程』を出版しているの、ぜひみてください！



そのあとは、花卉業をしている岡山さんのお宅へ訪問し、アサードを食べながらゆんたくはんたく。

岡山さんの畑では、鉢に入ったお花をたくさん育てています。

その後、同じ花卉業でも野菜の苗を育てている農家と種から大きくなるまで育てている農家にも行きました。

どちらの農家さんも現在では、多くの従業員を雇う大きな農家となっており、ウチナンチュの力強さを感じました。

最後は、みんなで意見交換をしました。

『いちやりぱちよーでー』の言葉のように初めて会う私たちを家族のように受け入れてくれるアルゼンチンウチナンチュの優しさに感謝する事、そしてウチナンチュの誇りを持って生きていくことを再認識できました。

残りも短くなってきました。

最後まで気を引き閉めて、楽しめます☆

12日目:8月25日(金)

Buenas noches !

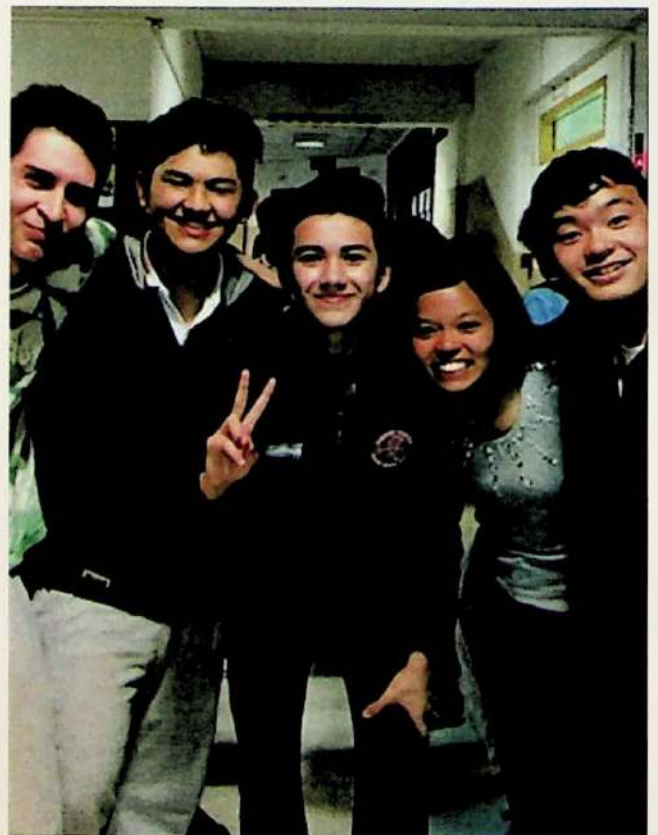
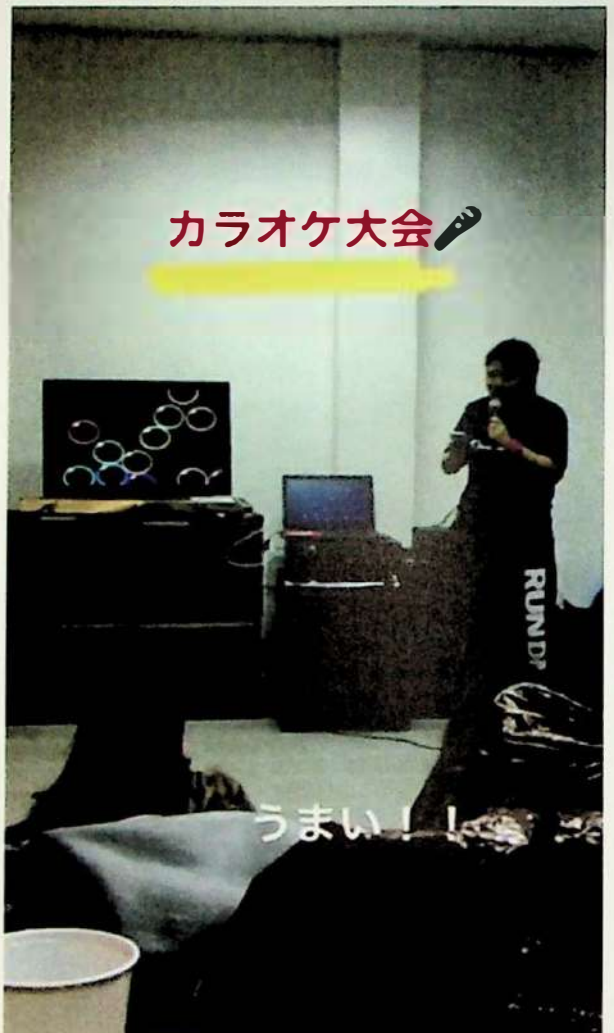
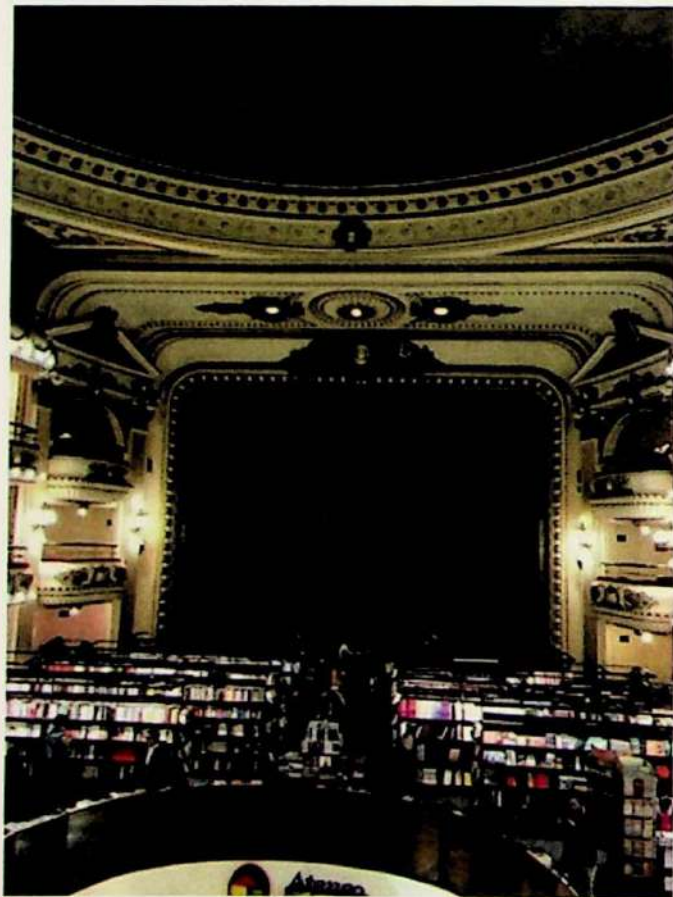
今日は、クリーニング屋を営んでいる日系人の方々にインタビューをしました！

政治経済が不安定なアルゼンチンで、移民当初は言葉も通じなかった為、日系の方々はたくさんの苦勞をされてきたことがわかりました。

その後は、世界で2番目に美しい本屋さんや日亜学院に行きました。

夜はみんなでカラオケ大会！！素敵な夜を過ごしました！

いよいよ、この研修も残り2日となりました。皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、充実した楽しい時間を過ごします！ラストスパート！！明日もお楽しみに！



### 13日目：8月26日(土)

いよいよこれまで旅を共にしてきた、アルゼンチンの皆様との最後の交流会がやって来ました。

そして始まった最後の交流会。

タンゴ、三線、空手、エイサーなどたくさんのお出し物があり。全てに思いが込められそれが伝わってきました。

特に祭り太鼓のエイサーでは、力強い音に、沖縄の鼓動を感じ、ちむどんどんしました。



私たちのパフォーマンスでは、アルゼンチンの人の心に残る劇ができたとおもいます！こんな劇ができたのも沖縄から共に来たメンバーの最強のチーム力のおかげだったと思います！そしてたくさん協力してくれた皆様、本当にありがとうございます！！



皆様とうちな一魂で繋がって家族の絆を感じました。最後の最後だけ、アルゼンチンでたくさんの温かい人たちと出会えたことに感謝、感謝でいっぱいです！！

サイコーの思い出をありがとう！

そして、また会うその時まで！！！！

### 14日目：8月27日(日)

悲しみの最終日

とうとう今日がやって来ました。

今日はアルゼンチン研修最終日です。

それぞれのホームステイ家族とお別れをしました。日系の皆さんはとても優しくくれました！！

遠いところからわざわざ顔を出してくれた方など、本当にいろいろ形の愛情と優しさに触れ合うことができました！！

本当に感謝しても感謝しきれません！

そして、ホストファミリーの方との別れは、とても辛かったです。

どの家族も本当の子どものように愛情を与えてくれました！！

今回の目標『家族になろう！』は大成功です！

この研修でウチナーンチュウ愛が増しました！

みなさん！ウチナーンチュウの日を忘れずに

この研修で、多くの事をいろんな方向から学びました！

ウチナーンチュウ最高●



はいさい！24時間以上あたるフライトめあと、2017年8月29日午後9時30分、わったー13人や無事沖縄んかいけーていちゃーびたん！

那覇空港うてい、わったーしんかとうかうやふあーふじとうかまんどーいびーるっちょーんけーていくいみそーちゃん。

笑いとうか、なたとうかあたる2週間ぬん、ちゅーつしうわいやいびーん。

くりから、アルゼンチンうていうきたるくとうとうか、感じたるいるいるなくとう、事後研修うていとみてい、最終発表会うてい発表せーやーんでい思いびーん！



うわいやいびーしが、くりまでいわったー手助けしくいみそーちやるうんじゅなーんかい(なまくぬ記事ゆでいくいみそーいびーるっんまぬうんじゅん、やいびーんどー！んでいめーにかちやがすらわからんやー？)、いっペーにふえーでーびる！



はいさい！計24時間以上にもなるフライトを終え、2017年8月29日午後9時30分、遂に我々13人は無事沖縄に帰ってまいりました！

那覇空港では、私達を支えて下さった大勢の方が出迎えて下さいました。

笑いあり、涙ありの2週間の本研修も本日で終了です。

後は、アルゼンチンで起こった事、感じた事、様々な事を事後研修でまとめ、最終発表会で発表します！

15、16日目：8月28日(月)、29日(火)

8月28日月曜日は、アルゼンチンの方々と別れて、寂しさともありましたが振り返りをしたり写真を撮ったりして、日本に出発しました！

全員笑顔で無事、沖縄へ！

最後に、これまで私達を支えて下さった皆様(今この記事を読んで下さっているそのあなたもそうですよ！って前も書いたっけ？)、

いっペーにふえーでーびる！

1日につかなくていわっさいびーたん。

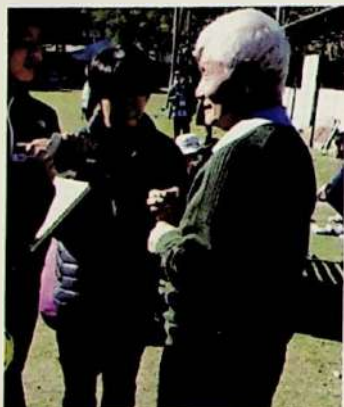


# 参加者感想

名護高等学校 2年生 玉城 優

夏休みに、アルゼンチンへ行きました。日本から一番遠く離れている国です。初めて見た異文化の世界はとても新鮮でした。一つ一つの景色や風景がずっと脳裏に焼き付いています。まさか、こんな所に私と同じ沖縄県出身の方たちが大勢いるなんて、アルゼンチンに行く前の私には信じられない事実でした。

私は、現地でたくさんの沖縄県出身者である県系人の方たちと出会いました。老若男女構わず、様々な年代の方たちと会話を交わしました。主に、県系人の方たちがアルゼンチンも含む南米大陸へ、移民として渡った時代の話と、現在



の沖縄についての話をしました。

移民当時の話では、沖縄に残してきた親戚や、沖縄地上戦後で生活が非常に苦しくなった家族のためにも、南米の地へ行く他、生きていく道がなかったこと。南米で働けば儲かると聞いていたが実際は、物価暴落が激しく、県系人の主な仕事であった農作では、与えられた土地の条件が悪すぎて、不適と知っていても、その土地で働くこと以外許されなくて、わずかな作物と収入だけしか得られなかったときのこと等について教えてもらいました。

実際にその時に住んでいた場所の名前や、当時の雰囲気、様子を、経験者本人、生の声から聞くと、まるでその当時に戻ったかのように、先人たちの辛さや苦しさ、そしてその壁と向き合う強さと、お互いで支え合う優しさが、鮮明に私の心へ伝わっていきました。県系人の方たちの、家族や仲間のことを一番に考え、何事にも我慢強く取り組む真面目な性格と、おしゃべりゆんたくが大好きで、よく泣いてよく笑う所と、あたたかくて愛に溢れた言葉と心。本当に驚きました。世界のこんな所にも、沖縄の美しい根っこが張っていました。もうひとつの素敵な沖縄です。

帰国後、私は現地で得たたくさんの出会いをきっかけに、スペイン語を学び始めました。そして、私たちうちなーんちゆの故郷である沖縄に、強い誇りを抱くようになりました。

この研修中で、一番お世話になったのは、ホームステイを受け入れてくれた日系人の皆さんです。たくさんの日系人の方たちの中でも特に過ごした時間が長く、素敵な思い出と一緒に作ってくれた暖かい人たちです。

私は4つの家庭をまわり、11人の日系人と繋がることができました。島袋ファミリーと比嘉ファミリーと知念ファミリーと、岡山ファミリーです。ファミリーの皆さんは、オススメのレストランに連れていってくれたり、アルゼンチンの有名なお菓子を私にサプライズで沢山プレゼントしてくれたり、自慢の楽器を演奏してくれたり、夜中の3時までお喋りを続けた夜もありました。毎日笑っぱなしでした。日中の疲れを癒すための睡眠時間でさえ、私には必要ないくらい、一緒にいられる時間が楽しくて、いとおしくてたまりませんでした。だから私は、成人したら自分で費用を貯めて、またアルゼンチンに帰ってこようと思います。



大人になったからこそできる恩返しと、親孝行をしに行きます。ほんとうに、貴重な経験をさせてもらいました。出会ってくれたすべての皆さんに、感謝しています。グрасィアス。ありがとう。

## 知念高等学校 3年生 国吉優那

### 『素晴らしすぎる海邦養秀ネットワーク構築事業プログラム』

私がこのプログラムを知ったのは三者面談のときに担任の先生からの紹介でした。私は、どんな心境で、どんな夢を持って沖縄を出たのかを知りたくて県人会に訪れたい、といった目標を持っていました。また、海外の人と繋がり人脈を広げたいと考えこの企画に応募しました。周りの協力もあり、合格しアルゼンチンに行けることになりました。

今回の研修で私が一番感動したことは人との出会いです。現地の人が『地球の反対側で暮らしているけれどウチナンチュであるあなたたちには、すぐ心を許せた』と言ってきて、自分がウチナンチュでよかったと強く感じました。沖縄にいる時は自分がウチナンチュということあまり感じていませんでした。



沖縄から離れ遠いアルゼンチンに来てウチナンチュの絆の強さを感じることができました。さらに現地の方だけではなく一緒にきたメンバーとの出会いも私を成長させてくれました。大学生の方からの将来へのアドバイスや、将来へ繋がる情報を教えてもらいました。さらに県庁の方や引率者の方、沖縄に残って見守ってくれている方々と出会いも宝物です。



私は今回のアルゼンチン研修で、多くの目標ができました。(スペイン語、英語、うちなーぐち、エイサー、三線)これらを達成するために沖縄に帰ってきて約2週間たっていますが取り組んでいます。沖縄の文化を守ることの大切さを知りました。また、沖縄の文化の力強さも学びました。地元ではなくアルゼンチンに行って気づくのも恥ずかしいばかりなのですがこの目標は、絶対に成し遂げたいと思います。

さらに、周りの人に伝えていきます。今回ルーツが私の地元である南風原の方とも交流し自分には、沖縄のアイデンティティだけではなく南風原のアイデンティティもある事を知りました。私のアルゼンチンへ行く目標であった、“人脈を広げたい”については、今まではSNSをやっていた事が反省点ではあるのですが、これを機にスタートしました。積極的に繋がることができました。

また、驚いたことにアルゼンチンだけで人脈を広がるのではなく、現地で出会った方の知り合いとも、沖縄に帰って繋がることができました。そこから多くの情報を得ることができました。今回の研修で世界のウチナンチュの日、世界のウチナンチュ大会の偉大さを知りました。



私は今、この日に私にできることは何があるのか、じっくり考えて活動していかないといけないと感じています。ウチナンチュの日にアルゼンチンにいるウチナンチュと繋がる事をひとつ約束しています。それは、スカイプを通してホームステイでお世話になった又吉家族と三線を引いてデュエットすることです。私は三線が全く引けないのですが10月30日までには安里ゆんたを完璧に弾けるように特訓中です。



今回の研修で私はたくさんの方向から多くのことを学び成長できました。海邦養秀のプログラムに感謝です。このような体験を多くの沖縄の人に行って欲しいです。

## 沖縄キリスト教学院大学 1年次 新垣 萌

私が海邦養秀ネットワーク構築事業に参加すると決めたのは、ウチナーンチュ大会を見たときに強く感動したことがきっかけです。

私が住んでいる南城市にもたくさんの移民者がいてその中にもアルゼンチンへの移民者が多くいることが分かりました。その時でした。

「絶対にアルゼンチンのウチナーンチュに会いに行きたい。生の声、思いを聞きたい。沖縄とアルゼンチンをつなぐ架け橋になりたい」とそういう思いが込み上げてきました。そして、沖縄の代表として選ばれ実際にアルゼンチンのウチナーンチュに会いに行けるチャンスをつかむことができました。それは、自分にとって新しい挑戦、新しい扉を開く始まりでした。



次に、アルゼンチンに行く前に、沖縄で研修を受けました。はじめは皆、不安そうな顔をしていましたが、2回目の研修から不安も解けてお互いに打ち解け合うことが出来ました。3回の研修を通して、一人一人が沖縄県の代表としてそれぞれの思いを胸に、いざ、アルゼンチンへ出発しました。アルゼンチンの空港について、現地のウチナーンチュが温かく迎え入れてくれました。アルゼンチンという異国の地ではあったけれど、



なぜか安心感を覚えました。アルゼンチンでの活動では、日系人の若者、おじいちゃんやおばあちゃん、現地の友達、県人会の人達と多くの人と出会い関わる事が出来ました。日系の方々は、初めて会ったにもかかわらず、家族のように暖かく迎え入れてくれました。まさに、アルゼンチンで感じたイチャリバチョデーの精神でした。日系の方が言っていました。「言葉はスペイン語、でも、心はウチナーンチュ。もっとウチナーンチュということに誇りをもって。方言は1つの言語だよ」このようなたくさんの言葉

をもらいました。その一つ一つに移民してきた人たちの生きてきた力、どんな時もウチナーを思う気持ちが伝わってきました。私のウチナーンチュ魂が燃え上がりました。また、現地で見たエイサーは、私の心に強く響きました。アルゼンチンの日系の人達が打つ太鼓の音にチムドンドンし、涙が零れ落ちました。最後の別れの日、多くの思い出と言葉では表せないくらいの感謝の気持ちが胸に込み上げてきました。

私はこの経験を得て、沖縄の伝統文化に対する見方が変わりました。沖縄の伝統芸能は人を感動させる力があるし、とても美しいということに気付かされました。それを、沖縄でやっていこうと強く心に決めました。そうすることで、アルゼンチンの日系の人達と離れていても、沖縄の文化を通して心がつながっていると思えます。そして、アルゼンチンでスポンジのように吸収した思いや、学んだことを沖縄で絞り出し広げていきたいです。このような活動もしていきます。この海邦養秀ネットワークメンバーだからこそ、出来たことがたくさんありました。家族のよう



に支えられるチームと感じます。これから、ウチナーンチュの心にも日系の人達の思いを響かせていくことが出来るメンバーなのです。

最後に、アルゼンチンで築いた絆は、これから、私の人生ですごい力になると思います。

## 那覇国際高等学校 2年生 新里 恵梨

### 繋がるウチナーンチュ

私にとってアルゼンチンで過ごした2週間は、本当にかげがえのないものです。そう自信を持って言えるのは、素晴らしい人たちと出会い、仲を深め、決して忘れる事のない経験ができた証なのでしょう。

“アルゼンチン”日本から見て地球の反対側の国。そんな遠い遠い国で私たちと同じ沖縄の血が流れる人たちが、沖縄の移民社会を作っている事をあなたは知っていましたか。アルゼンチンに行って驚いた事はたくさんあったが、その中で強く印象に残っている事は、アルゼンチンという地での沖縄県系人社会の繋がりの強さでした。この繋がりの強さというのは、沖縄にいながら感じる事ができません。実際にその地へ行って県系人の方達との交流の中で感じるものだと私は思います。例えば、アルゼンチンにいた2週間、毎日在亜沖縄県人連合会(以降沖連と呼びます)という場所にお邪魔させていただきました。そこでは県系の方達が集まり、エイサー、空手、琉球舞踊などの沖縄の伝統芸能、また沖縄の出身市町村別の模合などを行っていました。

自分がアルゼンチンにいる事を忘れるくらいそこには沖縄が溢れており、県系の方が和気藹々と楽しみ交流を深めていました。私がホームステイさせて頂いたホストファミリーも、毎週沖連に通っており、「ここに来ればみんながいる。第2の家って感じだね。」と言っているのを聞いてすごく感動しましたし、また同時に羨ましくも感じました。こうやって同じルーツを持つ人達が集まって、第2の家で交流を深める事ができるのはとても素晴らしく感じたからです。これは、沖縄県系社会の繋がりが強いからこそだと思いました。

また、私はたくさんの素晴らしい出会いに恵まれました。私がお世話になったホストファミリーは、自分のルーツである沖縄を愛し、沖縄の伝統を愛し、そして私を家族の一員として愛してくれました。「言葉はスペイン語だけど、心はウチナーンチュだよ。」インタビューした県系1世の方にそう言っていた方がいました。まさにこの言葉の通りで、心はウチナーンチュそのもの、温かかったです。これはホストファミリーに限らない。2週間の滞在中、色んな人と出会ったが、みんな温かく接してくれました。しかし、初めの方は言葉が通じない人にはどうやって思いを伝えたらいいのか悩んだこともありましたが、しかしその時、皆一生懸命私に向き合ってくれたので、私も思いを伝えることが出来ました。沖縄に帰って来てもずっと連絡を取れる友達、家族が出来たことは私にとって最高に嬉しいことです。沖縄に来る留学生の方ともたくさん交流したいと思った



のは、この経験の影響が大きいと思います。

私はこの2週間を通して、自覚している部分もしていない部分も含めて、たくさん成長出来たと思います。私の次の課題は、この経験、感じた事を伝えていく事です。更に、自分のアイデンティティを探す事も課題の一つです。海外のウチナーンチュが模索し続けているアイデンティティ。沖縄に住んでる私たちこそ探すべきです。一つ一つやっつけていこうと思います。

## 名桜大学 4年次 大城 綾佳

2016年10月、「第5回世界若者ウチナーンチュ大会」の実行委員を務め、初めて世界のウチナーンチュの存在を知りました。大きな夢を描いて沖縄を離れた人や先に向かった家族のもとへ向かう人など様々な移民の形があります。大会終了後から、世界のウチナーンチュに興味を持ち、新聞やテレビで情報を集め、大学では「移民と異文化」を受講し、移民について学び始めました。そんな中、今回の事業をみつけ、移民についてもっと深く学べると思い応募しました。



事前研修では、より深い移民の歴史や県系2世3世の方からそれぞれの移民のことについて聞くことができました。また、アルゼンチンの公用語となっているスペイン語の授業もありました。研修を重ねるごとに、メンバーとも仲良くなり、アルゼンチンでの2週間がとても楽しみになりました。

日本からアルゼンチンまでは、3回飛行機を乗り継ぎ計34時間かかりました。初めての長旅で、アルゼンチンに到着した時には疲れていたが、在亜沖縄県人連合会のみなさんが「めんそーれー」と沖縄の県旗とアルゼンチンの国旗を持って出迎えてくれました。スペイン語で話しかけられたらどうやって答えようと不安を抱いていたが、一気にその不安は吹き飛びました。



アルゼンチンには在亜沖縄県人連合会(COA)と呼ばれる大きな建物があり、私たちのアルゼンチン生活で欠かせない場所でした。日本語教室やエイサー練習、三線教室など日本や沖縄の文化を学べる講座が多数開かれており、多くの日系人やアルゼンチン人が参加していました。私たちは「琉球國祭り太鼓アルゼンチン支部」のエイサー練習と、三線教室「琉球サブカイ」に参加させてもらいました。エイサー練習では、大

太鼓や締太鼓、パーランクーの音がアルゼンチンで聞けることに感動し、真剣に踊っているメンバーの姿に心から感動しました。太鼓の音にチムドンドンし、沖縄の人だと再認識することができました。三線教室「琉球サブカイ」は、知名定一さんを講師とし2000年から活動をしています。練習には、20名あまりの人が参加し最年少は7歳でした。「三線あるから一緒に演奏しよう」と参加者の皆さんが声をかけてくれたが、全く三線が弾けず申し訳ない気持ちとウチナーンチュとして恥ずかしい気持ちになりました。沖縄で生



まれ育った私よりも、沖縄について詳しくまた「琉球舞踊」や「エイサー」「三線」など沖縄の伝統を学んでいて、何もできない私がウチナーンチュと名乗るのがとても恥ずかしいと感じました。沖縄にいるからこそ、学べる環境はたくさんあったが、それに目を向けずに育ってきたことを後悔したのと同時に、これから沖縄のことをもっと学びたいと思う気持ちが芽生えました。

沖縄に帰ってきてから、三線教室に通い始め、ウチナーグチの意味や発音の難しさに四苦八苦しなながらも、先人たちが築いてきた沖縄を少しずつ学び始めています。外の世界を見たからこそ、沖縄の良さをさらに感じる事ができた研修でした。

## 沖縄尚学高等学校 1年生 中川 僚麻

### 「アルゼンチンで感じた日本」

こんにちは。私は沖縄尚学高等学校1年の中川僚麻です。私がこの事業に応募した理由は、主に2つあります。1つ目は、近年私たち中高生が移民のことについて学ぶ機会が驚くほど少なかったのでまず、自分が行ってクラスや学年、あるいは学校に移民のことを伝え、より多くの人々に移民のことについて知ってほしかったからです。2つ目は、「南米」の文化に触れてみたかったからです。やはり、日本と南米は全然文化も違ってびっくりしました！

さて、これからは私がアルゼンチンで感じたことを話していこうと思います。題名にもあるように私はアルゼンチンでたくさんの日本を感じることができました。

その中でも2つみなさんに紹介したいと思います。まず1つ目として、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに「日本庭園」という場所がありました。ここは、日本の有名な寺・神社をレプリカにして、この園だけで日本一周ができるようなとても魅力のある場所でした。私はこの場所を最初見たとき、とても感銘を受けました。



まさかアルゼンチンで日本の歴史的なものを感じることができると思っていなかったからです。また、少し小さめでしたが首里城もあってとてもアルゼンチンとは思えませんでした。

2つ目は、ホームステイ先です。自分を泊めてくださった比嘉てるおさん、まさこさんは共に中城村出身の1世でとても優しくて自分のことを本当の息子のようにして下さってとてもうれしかったです。また、ホ

ストマザーの政子さんには教育について教えていただきました。ホストファザーの照夫さんには移民の歴史を教えていただき、知識が増えてとてもうれしかったです。このお二人に「沖縄の人に伝えたいことはありますか？」と尋ねると二人ともそろって「ウチナーンチュ魂を忘れないでほ

しい。」と聞いて、私はとても心打たれました。政さんがいうには近年アルゼンチンにいる2世・3世は、自分がウチナーンチュ・あるいは日本人ではないと思ってる人が多いそうです。1世の方々は沖縄から来ているから分かると思いますが、2世・3世の人々はあまり日本・あるいは沖縄の文化に触れる機会が少ないと思います。私は、これは沖縄に帰ってきた私たち10人の宿題だと思いました。ですから、どうかして日系



人の方々にはウチナンチュの心をもってもらいたいと思っています。

この2つのことがアルゼンチンで私を日本・沖縄のことを忘れさせてくれませんでした。だから、私はアルゼンチンのことをもっと知ってアルゼンチンから来た人たちに日本でアルゼンチンを忘れないようにがんばりたいです。最後になりましたが、今回お世話になった現地の皆さん、最後まで自分たちを引っ張っていただいた玉代勢さん、自分たちが安全に研修をできるよう予定を立ててくれた新里さん、自分のことを本当の息子のようにしてくれた比嘉ファミリー、本当にありがとうございました。次は半年もしくは1年留学で行きたいです！

## 沖縄国際大学 2年次 比屋根 愛海

私が海邦養秀ネットワーク構築事業に興味をもったきっかけは、スペイン語の先生の紹介でした。オリエンテーションでは移民について色々な話を聞くことができました。その時私は、宮古島で移民の話を聞いたことがなかったことに気づきました。そこでもっと移民について学びたい、宮古島からも移民がいたのか知りたい、宮古島と沖縄本島、そしてアルゼンチンとの架け橋になってみたい、もっと自分を成長させたい。そう思ったのがこの事業に参加したきっかけでした。

事前研修を通して、最高の仲間に出会えたと強く感じました。なぜなら、この仲間と過ごす時間の中で、自分の性格が再認識できて自分を見つめるいい機会となりました。意見をこんなにも言い合った仲間は初めてでした。みんな個性もそれぞれあってとても楽しい時間を仲間と過ごせました。3回の研修の中で強い絆ができました。みんなとの時間は、学校でも友達ともあまり体験できない充実感を味わえました。

そして、アルゼンチン研修では言葉に表せない日系人の温かさを感じました。日系人の方たちは、私たちがまるで家族のように出迎えて、そして付き添って、たくさん語って、ずっと一緒に過ごしてくれました。当時



の移民の話を聞いて、沖縄の人たちは本当に遅しくて誇り高いと感じました。さらに、アルゼンチンでエイサーやウチナーグチ、人の温かさなど多くの沖縄を感じもっと沖縄について学び、もっとウチナンチュとしての自覚を持とうと思いました。さらに嬉しかったのは、日系人の若者でさえも忙しい中行動を共にし、色々な体験をさせてくれたことです。うるま園でサッカーや一緒にお菓子を作ったのは本当に忘れられない思い出になりました。「アルゼンチン育ちでも心はウチナンチュ」ということを知ることができて、日系人の

人たちにイチャリパチョーデーがとても当てはまる言葉だと改めて思いました。更に、私は初海外で語学を活用できたことがとてもいい経験になりました。ホストファミリーとは英語とスペイン語でとても濃い時間になり、スペイン語を少し話せ



たことで日系人の若者との話のネタにも繋がりました。語学を学ぶことは視野を広げて繋がりを大きくできると感じました。また、コミュニケーションの最大の武器にもなったと言えます。この経験からもっと沖縄のことや語学を学び、色々なことを発信したいと思いました。

この研修を通して、世界には多くの沖縄県民がいて活躍していて、さらに生まれや育ちが違っても心はいつまでたってもウチナンチュということを知って、私たち次世代も負けてはいられないと感じました。また、自分自身の長所・短所を再認識できて、もっと自信を持って色々なことに挑戦したいと思いました。更に、恩を返せる大人になりたいと思いました。この研修を通して自分を見つめ、視野を広げることができて、沖縄県民としての誇りを持つことができました。さらに今後の課題も見つけたり本当に参加してよかったです。多くの人に感謝しています。本当にありがとうございました。

## 名桜大学 2年生 比嘉 友梨子

本事業を通して、世界のウチナンチュの素晴らしさを知るとともに世界のウチナンチュと関わることで様々なことを学ぶことができ視野を広げることができました。

はじめに、世界のウチナンチュについて深く学び実際にアルゼンチンのウチナンチュと関わることで現地の方々の想いを知る機会になりました。アルゼンチンに行く前に、ムトゥブンチュ大会の実行委員や世界の若者ウチナンチュ大会への参加をし交流をしていたが知識不足だったためその方々の想いは全くわかりませんでした。しかし、事前研修とアルゼンチンに滞在した2週間で私たちと同年代の方々や地元本部町の町人会の想いそして1世の方々の想いを聞くことができました。その想いの中から次世代のウチナンチュネットワークを構築するのに若者の力が必要だと感じました。実際に、本部町の町人会の



方々がアルゼンチン社会でウチナンチュという意識や誇りやアイデンティティが薄れている若者が多いと語っていました。その問題を解決するには、沖縄と世界のウチナンチュの交流が重要であると語っていました。このように直接話しをすることで現地の方々の想いを聞くことができました。

次に、私が行く前に目標としていた10月30日を広めるとともに、積極的にアルゼンチンのウチナンチュと交流を図りウチナーネットワークを築くということを実現することができました。1世から4世のウチナンチュとの深い交流の中で、日頃気づかないウチナンチュとしての誇りや素晴らしさに気づくことができました。この交流を継続させるためにソーシャルネットワーク内で繋がりが気軽に連絡をとることができる関係になれたことは目標達成したといえるのでし



よう。

本事業での体験から自分が次に何をやるべきかそしてやりたいことが明確になりました。それは、先ほども述べたように現地の方々の想いである沖縄とアルゼンチンの若者同士を繋げることです。そのためにまずは、地元本部町民に世界のウチナンチュの方々について知ってもらうことが大切です。特に、私が住んでいる本部町では、異文化交流の場が少なく、地域社会



のグローバル化は進んでいません。だからこそ、世界のウチナーンチュの方々を知ってもらい興味を持ってもらうことは重要なことです。そして、本部町の若者が世界のウチナーンチュの若者と交流できる機会を自らが作っていきたいです。国際交流の場を提供することで、地域のグローバル化が進むとともに次世代にウチナーネットワークを構築できると考えます。

最後に、本事業での様々な出逢いがあったおかげで世界のウチナーチュネットワークが自ら築けるきっかけの第一歩になったと考えます。

## 開邦高等学校 2年生 立津 海翔

私が今回のプログラムで感じたことや成長できたこと、印象に残っていることを書く前にプログラムに応募した理由を書きたいと思います。

1つ目に私は沖縄の移民について知りたかったからです。今では県系人のネットワークが世界中に広がり、世界のウチナーンチュ大会は6回目を迎え、毎年開催の世界若者ウチナーンチュ大会等が世界規模で行われウチナーンチュのとても強い絆や繋がりをみせています。二つ目に実際に外から沖縄を見たかったからです。沖縄は面積こそ小さいですが文化、繋がりが沢山詰まっっていて勢いのある県です。だから今回のプログラムを通してもっと沖縄を知りたいと強く思っていました。



今回の研修を一言で表すと「普段の学校生活では得ることが出来ない『別分野の学び』を体験できる」です。毎日沖縄の素晴らしさや人と人の繋がりを感じる2週間は新発見の連続でした。



私の初海外がアルゼンチンです。行く前は現地でのホームステイや県系人について期待と不安でいっぱいでした。しかし県系人の温かさのお陰でいつの間にか不安も消え本当に有意義な時間を過ごすことができました。

個人的に特に印象に残っているのはホームステイ先の家族との会話が本当に楽しかったです。私は2週間の間で3件の家をまわったのですが、どの家族もみんな優しく家族のように接してくれました。特に1件目のステイ先には私と同じくらいの年の男の子がいて、アルゼンチン、沖縄、アニメなどと色々な話をして楽しかったです。また、何だか初めて会った気がしないなあとずっと思っていました。

成長した、変化したと思う所は地元への愛、繋がりの素晴らしさを知ったこと、ウチナーンチュの誇りを持ったことです。

研修中に私の地元である今帰仁村出身の方と沢山会いました。その中で一度だけアルゼンチンの今帰仁青年部の人達とご飯に食べに行く機会があったのですが、ご飯を食べている間、皆が「今帰仁から来てくれて嬉しい」と言ってくれました。また帰りに青年部オリジナルTシャツをもらいました、その時言われた「たては離れていても家族だ、今帰仁の人は皆家族」という言葉がとても心に響き、嬉しさでいっぱい「繋がり」って不思議で凄いなあとしみじみ思いました。



今回のプログラムで私は沖縄の素晴らしい所を沢山知ることが出来ました。今私がやること、それは研修で得た「繋がり」や「沖縄」の素晴らしさを他の人に広めることです。正直それはとても難しいことだと思います。なぜなら行った人と行ってない人にはどうしても熱意の壁があるからです。それでも、少しでも興味をもってもらうよう自分の体験談を話したり、イベントに誘ってみたりと出来ることはあり、ずっと続けることが大事になってきます。終わりに今回本当に沢山のひとと繋がり家族になれて良かったです。一生自慢できる体験をさせて頂き本当にありがとうございます。

## 琉球大学医学部医学科 6年次 末吉 利成

### 島言葉(しまくとぅば)とクリーニング

今回、本事業に参加した目的は、アルゼンチン日系社会で島言葉(しまくとぅば)がどれだけ残っているのかを実際に感じ、現地のうちなーんちゅと交流を深めることでした。

私は大学のサークルで島言葉を勉強しており、この素晴らしい言葉を次の世代に残していきたいと考えています。島言葉は、ご存知のように県内の若者では話せる方はほとんどいません。それに対して移民社会では日常的に使用されることもあると聞き、日系社会の実に7割が沖縄県にルーツがあるというアルゼンチンへの関心が高まりました

しかし、実際に行ってみると中高年者が多くを占める2世や若い世代の多い3世の中で、現地の「日亜学院」という日系人の学校に通っていた方を除けば、島言葉も日本語も話せない方が多いという印象を受けました。それに対して、現地で出会った沖縄県系ボリビア移民の方は日本語は当然、島言葉が話せる方もアルゼンチン移民の方と比較して多くいらっしゃる印象を受けました。私がアル



ゼンチンでの研修でお会いし、お話をしてくださった21名の方々の出身地と島言葉そして日本語の使用状況について表1にまとめてみました。(表を見ると私の意見と違うと思われる方がいらっしゃると思うのですが、アルゼンチンの若い世代である3世の方など表にしている方が大勢いるため、表と意見が違っているように見える部分もあると思います。)

このような状況の背景には、以下のような理由があると私は考えました。アルゼンチン移民は大部分がブエノスアイレスなどの都市に移

民しています。現地住民の中で生きていくためにどうしても現地の言葉であるスペイン語の習得が必要とされてきました。それに対して、ボリビア移民の方々は、自ら山を開拓して村を作ったため、現地の方々のコミュニティに溶け込むというよりも沖縄から共に渡った人たちでコミュニティを形成したからではないかと推測しました。

世代が変わる毎に島言葉および日本語が話せなくなっているという印象がありました。そのような中でも、島言葉の復興に力をいれている





若者もおり、大変励みになりました。今回の研修を通して世界各国の日系社会における島言葉そして日本語の使用状況についてのきちんとした調査、考察したうえで、その各国で島言葉を残していくその地域に合った対策を検討していく必要があると思いました。

島言葉に関連して印象深かったこととして、在アルゼンチン沖縄県人連合会(Centro Okinawense en la Argentina 以下、COA)の幹部の皆様が開いて下さった歓迎会にて、1人の幹部の方とお話をした時の事を紹介します。その方は、スペイン語と島言葉しか話せませんでした。そのため、私は島言葉をお互いの共通の言葉として会話するという貴重な経験をしました。私は、父も母も祖父母も島言葉が話せないため、普段ほとんどサークルでのみ島言葉を使用していますが、その島言葉がコミュニケーションの手段として他の言語と遜色なく使用できたという経験は、私にとって大きな自信となり忘れがたいものとなりました。

次に、移民の勉強は沖縄にいても出来ますが、現地のうちなーんちゅと交流をする事で色々なお話が聞けて、より深い所まで学ぶことが出来ました。例えば、事前研修で、アルゼンチンの移民1世は花卉(かき)栽培業やクリーニング業に携わる者が多かったという事を勉強しました。しかし、なぜそれらの職業なのかは分かりませんでした。実際に行ってみて、1世の方々がそれらの職業を始めたのは偶然ではないというお話をうかがえました。アルゼンチンにかぎらず移民の1世の方は、あまり現地の言葉が得意でない方が多かったため現地の方と会話を殆ど必要のない職業を選ぶ事が多かったということと、1世の方々が移民した当時のアルゼンチンは、映画に行くにしてもスーツを着てネクタイを身につけて行くような、身だしなみにとても気を遣う社会であり、また、祝い事など何かがある度に必ず花束を持っていく習慣があったからであると聞きました。そのような状況だったので、花卉(かき)栽培業やクリーニング業は大変需要がありました。以上より、それらの職業に従事する人が多かったということです。



最後に、今回海邦養秀ネットワーク構築事業に参加して、私は様々な事を体験し学ぶことが出来ました。支えて下さった沖縄県、国際旅行社、COAのスタッフの皆様、アルゼンチンのうちなーんちゅの方々、一緒に行った仲間たち、そして私の父、母にこの場を借りて感謝の意を表します。ありがとうございました。

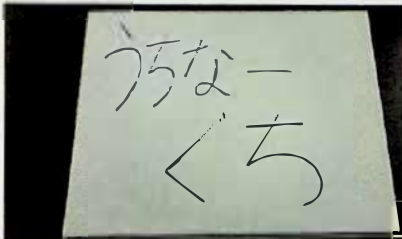
表1

|          | 日本語、島言葉どちらも可能 | 日本語のみ可能 | 島言葉のみ可能 | どちらも出来ない |
|----------|---------------|---------|---------|----------|
| アルゼンチン1世 | 3             | 2       |         |          |
| アルゼンチン2世 |               | 4       | 1       | 4        |
| ボリビア1世   | 3             |         |         |          |
| ボリビア2世   | 1             |         |         | 2        |
| ボリビア3世   |               |         |         | 1        |

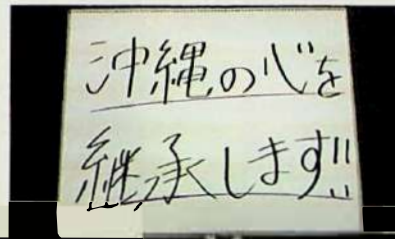
※この表に記載されてある数字は今回お会いした方々の個別の状況であり、現地の日系社会の言語使用状況を一般に反映しているとはかぎりません。

# 行動宣言

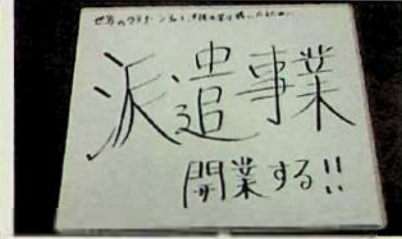
報告会ではアルゼンチンでの経験を活かして、ウチナーンチュを繋ぐ架け橋となるため、これから私達がやることと目指すことを宣言しました。



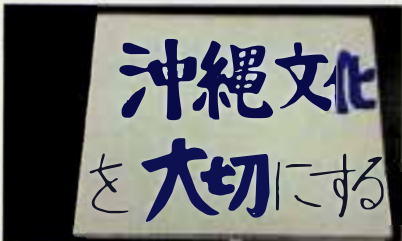
末吉 利成



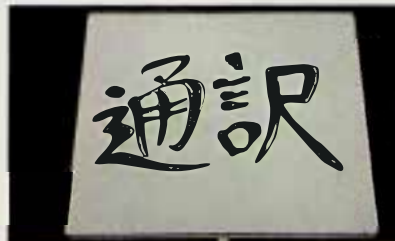
大城 綾佳



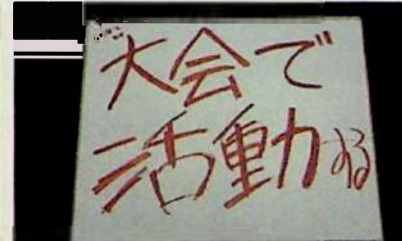
比嘉 友梨子



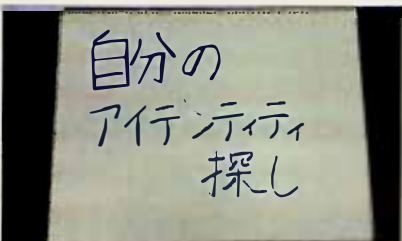
比屋根 愛海



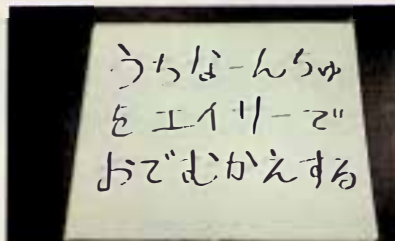
新垣 萌



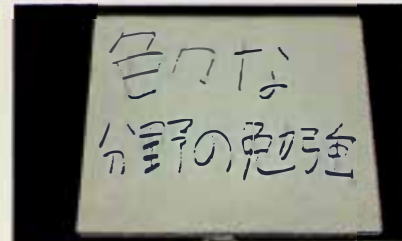
国吉 優那



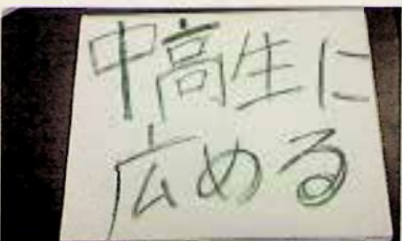
新里 恵梨



玉城 優



立津 海翔



中川 僚麻

# 派遣後の活動～研修での学びを学校の授業やイベントで発信し活躍！～

- ① 実施日 ② 場所 ③ 内容 ④ 感想

## ●国吉 優那(知念高等学校)

- ①2017年9月12日(火)  
②知念高等学校LL教室(英語クラブ)  
③アルゼンチンの県系人から学んだこと

④私がアルゼンチンで県系人から学んだ事があります。彼らは何らかの形で沖縄の文化に触れていました。実際に私は何も文化継承をしていません。その事にとっても恥ずかしくなりました。この時、沖縄の文化を守り伝える事は私の任務だと思いました。



そして、沖縄に帰って同世代の人に、地元沖縄の文化が無くなることの危機‘沖縄文化の継承’を伝えました。みんな凄く危機感を感じてくれたのですが、行動に移す、となったら話は別でした。なので私の課題は、実際に行動してもらえるようどうやって伝えていくか考える必要があると感じました。

## ●比嘉 友梨子(名桜大学)

- ①2017年10月15日(日)  
②名桜大学学生会館SAKURAUUM 6F

③沖縄県内における地域社会の国際化を促進するために、沖縄にやって来る沖縄県出身海外移住者子弟等研修生や県費留学生を集め、各国の沖縄移民・コミュニティの紹介、また沖縄県民とのディスカッションや交流などとして、相互理解を深め、沖縄の未来やお多義の木津名について考える機会を提供することを目的としています。

④世界のウチナーンチュ学生サミットに参加して、沖縄と世界のウチナーンチュの繋がりの強さを感じました。研修生からプレゼンテーションでは、その国々の移民の歴史や食文化を学ぶことができました。また、意見チャンプルーでは、研修生が沖縄に来て感じたことや魅力について話し合っ、改めて沖縄のよさに気づける機会でした。そして、世界のウチナーンチュと交流したことによって人脈が広がり沖縄と世界のウチナーンチュとの架け橋の第一歩になったと思います。これからも、世界のウチナーンチュとの関わりを大事にしていきたいです。

2018年2月6日にペルーの世界若者ウチナーンチュ大会へ行ってきました。そこで、これまで出会った方々との再会また、これら会う人との出会いを楽しみにしています。人脈を広げるウチナーンチュの絆を深めていけるよう頑張ります。



●比屋根 愛海(沖縄国際大学)

①2017年10月31日(火)

②沖縄国際大学(スペイン語クラス)

③レッツスタディー！ワールドウチナンチュ事業の一環として沖縄のNGOセンターと合同授業を行いました。

最初は移民のことをクイズ形式で紹介してその後、愛海さんがアルゼンチンでびっくりしたこと、食文化やアルゼンチンの日系人が沖縄の若者に伝えたいメッセージと共に印象に残った方のこと伝えました。最後に、マテ茶文化を実際に飲んでもらいながら紹介しました。

④出前講座を通して、多くの人に移民についてもっと知って欲しいと強いきいパワーポイントを使いながら伝えました。私たちはウチナンチュであるということにもっと誇りと自信を持って色んなことに挑戦していかなければならないと思います。さらにマテ茶の試飲も行い、スペイン語をとっている方たちに少しでもアルゼンチンに興味を持ってもらえたと感じました。緊張はしましたが、私が感じたこと学んだことを同じ大学生にシェアできたことはとても嬉しかったです。今後も移民について伝えられることは伝えていきたいと思っています。



●新垣 萌(沖縄キリスト教短期大学)

①2017年11月21日(火)

②キリスト教短期大学(シャローム会館)

③11月21日に、大学内でアルゼンチン研修について、出会った方々のこと、感じてきたこと、そしてみんなで考えていきたいことについてプレゼンテーションをしました。

④アルゼンチンに実際行って移民などの歴史もっと知りたいと思うよ

うになりました。自分の身内や身近な人に移民や沖縄の文化について伝えることを第一歩にしながら、海外の方々にも沖縄の事をアピールできる人になりたいです。そのこともあり、移民や世界のウチナンチュの日の関連イベントに実際参加するようにしました。参加していると新たな出会いがあったり、懐かしいメンバーとの再会があったりしました。そういう人との出会いも楽しみひとつとなっています。身内と会ったときにもアルゼンチン研修での感動についても話すようにしています。



# 派遣後アンケート

## 事前研修について

事前研修全般の評価とその理由をお聞かせください。

|         |   |
|---------|---|
| 満足      | 9 |
| やや満足    | 1 |
| どちらでもない | 0 |
| やや不満    | 0 |
| 不満      | 0 |

## 理由(抜粋)

- ・ 移民について学ぶことができ、さらに沖縄にいるアルゼンチンの方と関わることができた。
- ・ チームビルディングを通してチームの絆を深めると共に移民のことについても学べた。
- ・ 日系人の方たちとたくさん交流ができ、沖縄の文化や、海外に対してもものすごく興味を持てた。
- ・ 行く前にアルゼンチンのことについて知ることができてよかった。先輩たちとの話もよかった。

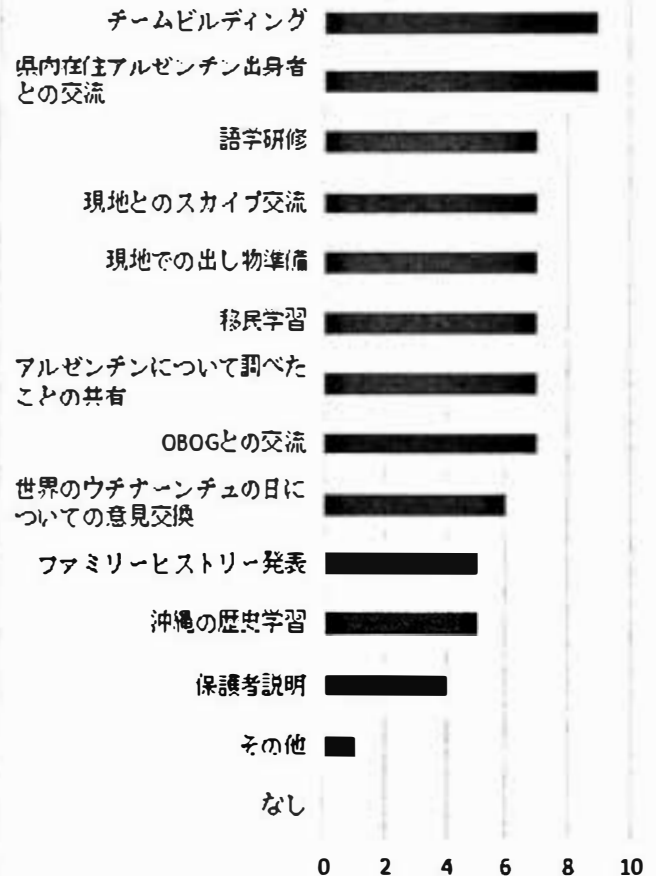
## (2) 日数・時間

|        |   |
|--------|---|
| ちょうど良い | 7 |
| 長い     | 0 |
| 短い     | 1 |

## 理由(抜粋)

- ・ メンバーと仲良くなれるくらいの日数でした
- ・ 内容が濃くてあっという間の時間だったから
- ・ 出し物もキチンと完成できたのでよかった。

事前研修で特に役に立ったものと、その理由をお聞かせください。(複数回答可)



## 理由(抜粋)

- ・ OBOGとの交流は不安を減らす良い機会でした。
- ・ 事前に、日頃学べなかった、学ぼうとしなかったことについていろいろ触れることができた。
- ・ グース外間さんとスカイプできたのは、とても充実できました。
- ・ すべての研修が大切な学びになりました。
- ・ チームビルディングで団結力を身につけて、みんなで課題の共有をして知識を深められた。日系人の方とも交流できて楽しかった
- ・ 現地でグループワークがしやすかったし、予備知識もあってよかった

- ・ ファミリーヒストリーを知ることでより、深く移民について知ることができた

**海外研修について**

(1) 総合

|         |   |
|---------|---|
| 満足      | 9 |
| やや満足    | 1 |
| どちらでもない | 0 |
| やや不満    | 0 |
| 不満      | 0 |

**理由(抜粋)**

- ・ 実際に現地で様々な事を体験できたし、友人も増えた
- ・ 視野を広げそして世界のウチナーンチュについて深く知ることができました
- ・ 先輩方と楽しくできたし、充実した時間を過ごすことができた
- ・ 沖縄・日本について考えさせられた
- ・ 初海外で全てが刺激的でした。そしてなによりも人との出会いが素敵な思い出を作ってくれました。
- ・ 老若男女問わず関わられた。日系人以外のアルゼンチン人に会って話をしたかった。

(2) 日数

|        |   |
|--------|---|
| ちょうど良い | 5 |
| 長い     | 0 |
| 短い     | 5 |

**理由(抜粋)**

- ・ 2週間だったら、ホームシックにもならず過ごせる時間もちょうどよくて、仲よくきがるでいられた。
- ・ もっと長い良かったです～！
- ・ 新鮮な日々を送れたので。

(3) 特に印象に残っているプログラムや交流は何ですか。

| プログラム等     | 理由   |
|------------|--|
| うるま園       | 若者と交流もでき、親戚にも会えた。<br>サッカーしたり、アサード食べたり、お菓子作りをしたから |
| 卓球、ホームステイ  | たくさんおしゃべりできた！<br>また、体を動かすことができてよかった。             |
| 送別会、ゆいまーる社 | 移民について学べた  |
| 送迎会        | エイサーやカラテ等の沖縄文化交流ができてとっても楽しかったから。                 |
| OBOGとの交流   | OBOGの方々の体験談が良かったです                               |
| カプサイ三線教室   | 沖縄の文化にふれて、より沖縄に着いて興味が湧いた。                        |
| パフォーマンス    | お互いに心を交換できたと思った。本当に感動した。                         |

**事後研修について**

事後研修全般の評価とその理由をお聞かせください。

(1) 総合

|         |   |
|---------|---|
| 満足      | 6 |
| やや満足    | 2 |
| どちらでもない | 0 |
| やや不満    | 0 |
| 不満      | 0 |

**理由(抜粋)**

- ・ 改めて意見共有できました。

- 自分の気持ちを整理できた。
- 報告会に向けて、10名でいろんな考えを出し合えたから
- みんなで意見をまとめると、10名分の情報が入る
- OBOGの話をきけたから
- 自分を見なおす時間にもなったし、みんなの意見も聞いた。

(2)日数・時間

|        |   |
|--------|---|
| ちょうど良い | 6 |
| 長い     | 0 |
| 短い     | 2 |

理由(抜粋)

- 多くもなく、少なくともなかったです。
- 安心して報告会に向けて、家に帰ってからも宿題(課題)に取り組めたから
- もう少ししたかった
- みんなで思い出を語って成長を感じられたから。
- 長すぎでもなく、話すこともできて、満足できる時間だったから。

報告会について

報告会全般の評価とその理由をお聞かせください。

(1)総合

|         |   |
|---------|---|
| 満足      | 6 |
| やや満足    | 3 |
| どちらでもない | 0 |
| やや不満    | 0 |
| 不満      | 0 |

理由(抜粋)

- オーディンスに私達の想いが伝わったと思います。

- ゆるく楽しく取り組めたからです
- 自分の思いを伝えられた。みんなの考えも聞いた
- 友達を呼びたかった
- たくさん考えることができた。
- アルゼンチンとの考えたことや学んだことを言うことで確じつに、ていちゃくした。自分の中で。

(2)時間

|        |   |
|--------|---|
| ちょうど良い | 6 |
| 長い     | 3 |
| 短い     | 0 |

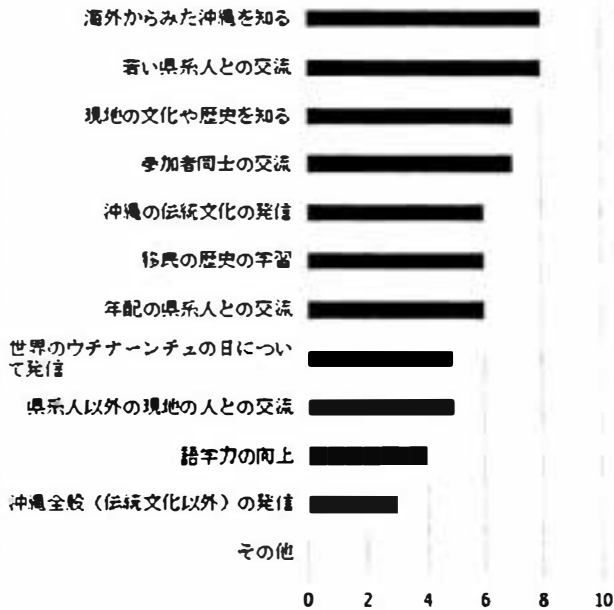
理由(抜粋)

- つかれないくらいでした。
- 少し長く感じた
- 言いたいことがしっかり言えました。良かったです。
- とても楽しかったし、充実していたから
- 3時間も人前にいたことがなかったので緊張でとても疲れたから。

一連の研修を通して

Q9. 研修に期待したこととその達成度について

(1) あなたがこの研修に期待したことはどのようなことですか。(複数回答可)



(2) それはどの程度達成できましたか。

|             |   |
|-------------|---|
| すべて達成した     | 4 |
| ほぼ達成した      | 5 |
| あまり達成できなかった | 0 |
| 全く達成できなかった  | 0 |

理由

- ・ 自分の目標を達成して、新しい目標も見つけました。
- ・ たくさんの方と交流し絆を深めることができた。しまくとぅばももっと学んでいけばよかった
- ・ 自分から積極的にいけない部分があったから。
- ・ 色んな人とたくさん交流できたから。
- ・ 人脈ができた
- ・ アルゼンチンで家族もできて、宮古に帰った時も研修のことをたくさん話して伝えることができた。

- ・ 積極的に行動できたから
- ・ 海外から見た沖縄をもっと知りたかった。
- ・ もっと勉強してやっとならばよかったと思ったことがあったから、完全に満足ではなかったけど、とっても心からよかった研修だった。

Q10. この研修を通して、何名の人と新たな繋がりができましたか。数字をご記入ください(概算可)

「新たな繋がり」の基準は、単なる顔見知りを除き、電話や手紙、SNS等により互いに連絡がとれる状態とします。また、参加者同士やOBOG等、県内でできた繋がりも含まれます。

| 県内在住 | 海外在住 | 国内(県外)在住 | 合計   |
|------|------|----------|------|
| 20   | 40   | 5        | 65   |
| 15   | 65   | 0        | 80   |
| 17   | 34   | 0        | 51   |
| 50   | 30   | 30       | 110  |
| 20   | 80   | 0        | 100  |
| 20   | 50   | 2        | 72   |
| 20   | 60   | 1        | 81   |
| 10   | 50   | 3        | 63   |
| 5    | 120  | 5        | 130  |
| 177名 | 529名 | 46名      | 752名 |

その中で、あなたが特に紹介したいユニークな又は印象的な繋がりがありましたら、詳しくお聞かせください。

印象的な繋がり

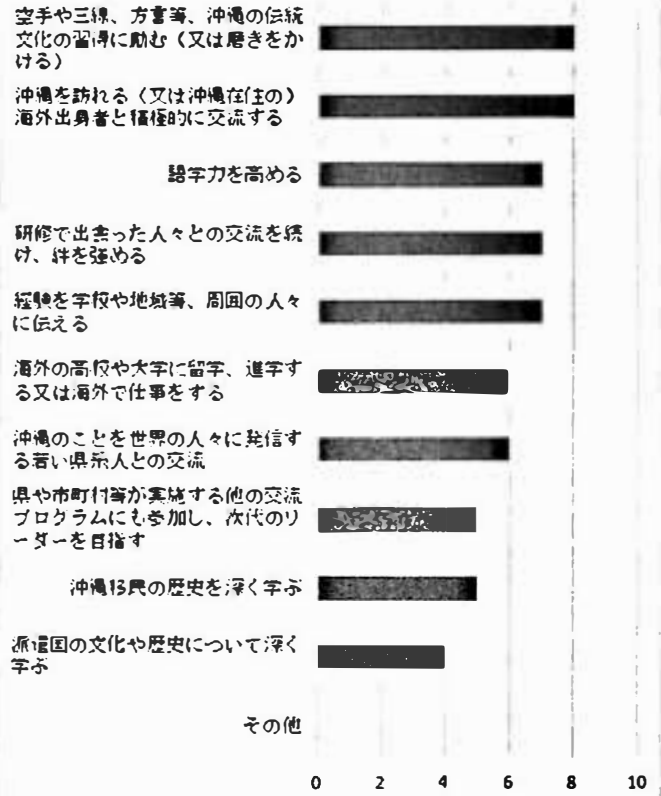
- ・ 沖縄でアルゼンチン女性との出会いがあり、さらに半年ぶりにその方と再会しました。
- ・ 今、沖縄にきているクロちゃん
- ・ スペイン語を少し話せたことで多くの日系人と話げできた
- ・ おばあちゃんのいところがあった！！
- ・ 「在亜系満市民会」の食事会に参加。系満市民で良かったと思った。



**詳細、理由**

- これからも絆を深め、みずから新たな出会いを作っていきたいです。
- 自分のアイデア探し
- 沖縄の文化、海外についてすごく興味を持ったから
- もっと空手ががんばって、みんなに普及したい
- 沖縄について知れた事は大きかった
- この経験を生かして、多くの人に移民や沖縄のことを伝え発信していきたい。更に、沖縄の文化も大切にしていきたい
- 色々な文化の勉強をする
- まずは、沖縄の文化を学ぶ。(三線や料理)
- 経験したことを自分どまりではなく伝えていきたい。

Q11.この研修を踏まえ、今後、特に何をしたいですか。(複数回答可)



# ホストファミリーアンケート

Q1. 事業に関する総合的な感想を記述してください。

(良かった点、改善すべき点、参加者に対する要望、その他)

Describe las impresiones generales del proyecto del viaje de intercambio de los estudiantes de Okinawa (aspectos positivos, aspectos a mejorar, peticiones de los estudiantes, etc.)

Centro Okinawense en la Argentina

在亜沖縄県人連合会

Creemos que es un programa importante porque los okinawenses conocen cómo viven los descendientes uchinanchu en el extranjero. Además, es una forma para crear lazos entre Okinawa y la Argentina, ya que luego de culminado el programa los jóvenes se siguen comunicando a través de las redes sociales. Creemos que no solamente los okinawenses aprendieron, sino también las familias homestay y los chicos que nos ayudaron aprendieron de la cultura y forma de pensar de Okinawa.

El Centro Okinawense en la Argentina se sintió honrado por ser considerado para participar en el programa. Nos contagiarnos de la alegría de los participantes de Okinawa.

Muy agradecidos

この事業は沖縄のみなさんに世界にいるウチナーンチュの子孫(2、3世等)の生活を知ってもらう為の重要な機会になっていると思います。帰国する参加者が研修を終えてもSNS等で連絡し続けていることをみると、沖縄とアルゼンチン間の絆を築ききっかけでもあったと思います。

沖縄からの参加者だけではなく、ホストファミリーの皆さんや協力した皆さんも沖縄の文化や考え方について学ぶことが出来たと思います。

事業のなかで、在亜沖縄県人連合会が受け入れ先として名前が上がったことに誇らしく思うと共に嬉しく思います。沖縄からの参加者の明るさがみんなに伝わり、広がっていきました。大変感謝致します。

仲宗根ファミリー

Una experiencia muy enriquecedora culturalmente para los jóvenes uchinanchu de Okinawa y Argentina. Es una buena oportunidad para crear lazos entre ambas tierras y para que los jóvenes aprendan los unos de los otros. A pesar del corto tiempo se formó un lindo grupo entre todos los que participaron y ayudaron. En lo personal me gusto hacer homestay ya que a través de Yuri, mi familia y yo, pudimos aprender mucho sobre los jóvenes de Okinawa y establecer una linda amistad. Todos los chicos que vinieron eran muy agradables, sociables y se esforzaban por comunicarse con nosotros a pesar de la diferencia de idiomas.

沖縄とアルゼンチンの若者にとって大変ためになる文化的交流だったと思います。両国の若者が互いに学び合いながら、絆をつくるとても良い機会だったと思います。短い期間だったにも関わらず、沖縄からの参加者、アルゼンチンの若者や関わったみんなが仲間となりました。

個人的にホストファミリーをして、よかったと思います。ゆりさんを通して、私たちは沖縄の若者のことを知り、そして友達になることもできました。

沖縄からの参加者のみんなは明るくて、気さくで、言葉の壁を感じさせない素敵なひとたちばかりでした。

### 名城ファミリー

Los intercambios enriquecen de muchas formas: conexión con la cultura china, recordar la historia de nuestros ancestros, actualizarnos sobre la realidad en Japón y en Argentina, seguir apostando en la valorización de nuestra identidad nikkei-uchinanchu en cada de los países latinoamericanos. Los intercambios son productivos no sólo para los becarios, sino también las familias que realizan homestay, iendo de la rutina y emocionándonos con aspectos de nuestra personalidad y de nuestra historia que muchas veces dejamos guardados.

このような交流は色々なところで私たちが豊かにしてくれます。自分たちの祖先について考える機会となり、沖縄とその文化とのつながり、そして日本やアルゼンチンの新情報を知ることも出来ます。ウチナーアイデンティティーを強くしてくれます。

この交流では、沖縄からの参加者だけでなく、ホストファミリーにとっても良い刺激となり、普段語らない自分自身のことも話す機会になりました。

### 佐久田ファミリー

La idea general es muy buena y el intercambio cultural que se vive es extraordinario, especialmente al estar conviviendo. En especial nos enteramos con poco tiempo de la posibilidad de hospedar a uno de los chicos y no pudimos organizarnos de la mejor manera (a Mamá le hubiera gustado poder tomarse vacaciones para poder estar en casa más tiempo y compartir más).

Y creo que hubiese estado bueno, ya que hicieron el viaje hasta acá, conocer un poco del resto del país (aunque no sea el centro del viaje).

交流の目的はとても良い、総合的な文化交流は素晴らしく、それは一緒に生活するなかで感じました。ホストファミリーとして参加者を受け入れることを知ったのがとても急だったため、準備の時間が短く、十分な準備が出来ませんでした(母は前もって分かっていたら、有給などの休みをとってもっと一緒に過ごすことも出

来たのではないかと思います)。そのように出来たらもっと良かったのではないかと考えています。

Q2.受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか。感想をお書きください。

¿Cómo fue la actitud del estudiante en la convivencia o respecto al aprendizaje de nuevas experiencias? Describa sus impresiones.

Centro Okinawense en la Argentina

### 在亜沖縄県人連合会

Vimos a los participantes muy animados y participativos, siempre con una sonrisa y preguntando sobre la Argentina. Siempre ávidos de aprender sobre el país y sus costumbres. Chicos que representaron muy bien a Okinawa.

学生はとても積極的で、いつもニコニコしていました。アルゼンチンという国とその習慣に関心をもって、たくさん質問をしてくれました。沖縄を代表する素晴らしいメンバーだったと思います。

### 仲宗根ファミリー

Cómo fue la actitud del estudiante en la convivencia o respecto al aprendizaje de nuevas experiencias. Describa sus impresiones.

Yuri siempre estaba dispuesta a probar nuevas cosas, ya sea comida tradicional argentina o comida okinawense que hacemos acá. Todo el tiempo mostraba interés por nuestra cultura y como viven los uchinanchu en Argentina. La convivencia fue muy linda. A pesar de su cansancio, siempre se quedaba charlando con nosotros hasta tarde. Y nunca dejaba de agradecer. El idioma no fue una barrera porque ella hablaba inglés.

ユリさんはアルゼンチン料理づくりに留まらず色々なことにチャレンジしました。いつも、アルゼンチンの文化やここにいるウチナーンチュウについて関心を見せていました。一緒に生活をして、よかったです。疲れがあっても、遅くまで私たちとユンタクをしてくれました。

いつも、感謝の気持ちをみせてくれて、言葉の壁をあまり感じさせませんでした。

#### 名城ファミリー

Yuriko Higa fue una estudiante muy respetuosa, amable y muy involucrada con el objetivo de esta beca. Se preocupó por entrevistar a cada uno de los homestay para poder enriquecer su experiencia, se mostró abierta a aprender sobre el idioma español y a comprender las costumbre y el estilo de vida de los nikkeis. Siempre fue respetuosa con nuestra rutina y muy agradecida con los refrigerios que le ofrecimos. Su estadía en nuestra casa fue sumamente enriquecedora, una becaria asombrosa.

比嘉ゆりこさんは親切で、優しく、しっかりと本事業の目的を持っている人でした。私たちの習慣や生活スタイル、そしてスペイン語にも興味を見せてくれました。私たち一人ひとりにインタビューをして、しっかりと学んでいました。

私たちに迷惑が掛からないようにスケジュールをしっかりと管理していました。ゆりこさんは本当に貴重な人材だと思います。私たちにとってためになる良い経験でした。

#### 奥間ファミリー

Creemos que es una buena experiencia para los estudiantes que vinieron el poder conocer la forma de vida de los Uchinanchu del extranjero y la forma de una sociedad muy distinta a la de Japón.

Siempre tuvieron una buena predisposición para realizar las actividades.

Una cuestión nuestra por lo menos, era la de no saber específicamente qué objetivo tenía el intercambio, por ejemplo: conocer el país, la sociedad argentina, la forma de vida de los Uchinanchu, la vida que tuvieron los inmigrantes, intercambio con jóvenes, etc.

Se podría consultar de antemano que interés tienen al venir al país. Por ej: ir algún lugar en particular o conocer sobre algún tema en particular. Y en lo

posible que esté consensuado entre todos, así van todos juntos.

今回は海外のウチナーンチュの生活や日本と違う社会を知ってもらう良い機会だったと思います。参加者のみなさんはいつも積極的にプログラムに関わっていました。

#### 佐久田ファミリー

En el caso de Ami tuvo siempre una gran actitud: atenta a lo que hacía falta en casa para colaborar y dispuesta a aprovechar el tiempo para aprender o conocer nuevos lugares. Además en casa no se habla japonés, yo apenas y mamá nada, y de todos modos logramos comunicarnos con mucha paciencia. En ningún momento se mostró molesta por este hecho, sino que buscábamos cómo resolver esta dificultad si nuestro nivel de inglés no nos alcanzaba,

アミさんはなんでも積極的に関わってくれました。家にいるときはいつも気を利かせ家事も手伝ってくれました。常に学ぶ姿勢でいました。私の家では日本語を話しません。私は少しだけ話せますが、母は全く出来ません。しかし、アミさんは言葉の違いに対しイヤな顔もせず、英語が不十分ながらもお互いに(言葉の)壁を乗り越えようとしたことがとても良かったです。

Q3. 沖縄からの学生を受け入れたことで、何か変化ありましたか。それはどういう変化ですか。(例えば: 子ども達が沖縄へ行きたいと言うようになった。日本語を習いたくなったなど)

¿ Ha percibido algún cambio luego de recibir a los estudiantes de Okinawa ? En caso afirmativo :

¿ Qué tipo de cambio? ( Por ejemplo: que los niños hayan manifestado interés por ir a Okinawa, o por aprender japonés, etc.)

Centro Okinawense en la Argentina

在亜沖縄県人連合会

Se creó una linda amistad entre los chicos de Argentina y los de Okinawa. Los chicos se acostumbraron a saludar como argentinos.

En el caso de los participantes y colaboradores locales, muchos aprendieron de Okinawa y mostraron su deseo de viajar y conocer personalmente Okinawa.

参加者たちはすぐ仲良くなりました。学生たちはアルゼンチン式(キスする)のあいさつを受け入れ、同じようにやっていました。アルゼンチンの若者は沖縄について勉強し、本事業をきっかけに、沖縄へ行きたいという人が増えました。

#### 仲宗根ファミリー

Fue una experiencia muy linda. Antes de hacerlo teníamos un poco de miedo por ser la primera vez que hacíamos homestay a alguien de Okinawa. Miedo por el idioma y por los tiempos. Pero nos adaptamos bien. Una vez que lo hicimos, nos encantó. Lo disfrutamos mucho.

初めてホストファミリーとして人を受け入れたので、最初は不安がありました。言語の問題やスケジュールの調整などどれも初めての事でした。でも、やってよかったですと思います。楽しかったし、いい経験になりました。

#### 名城ファミリー

Absolutamente. Recibir a Yuri fue una alegría, nos hizo reconfirmar y valorar las virtudes de ser nikkeis uchinanchus en Argentina. Así como revalorizar las ganas de viajar alguna vez y conocer Okinawa, en el caso Alberto y Kikue.

ユリさんとの出会いが大変よかったですと思います。アルゼンチンの日系ウチナンチュとしての気持ちが強くなりました。そして、ウチナンチュであることを意識するようになりました。ウチナンチュとして、誇りを持って頑張りたいと思います。アルベルトさんとキクエさんはまだ沖縄へ行ったことがないのですが、沖縄へ行きたいという気持ちが高まったようです。

# 編集後記

突然ですが、質問です。

アルゼンチンといえば何ですか。サッカー？タンゴ？それともイグアスの滝？いえいえ、それだけではありません。アルゼンチンには16,000人を超える多くのウチナーンチュが暮らしているんです。

昨年、事業開始10周年の区切りを迎え、2017年新たなスタートを切った海邦養秀ネットワーク構築事業。今年、アルゼンチン共和国(在亜沖縄県人連合会)へ10名のニーセーターを派遣しました。

参加者達は、現地の県系人の皆様と出会い、通常の旅行では決して味わえない大変貴重な経験をさせていただきました。特に、派遣中に取り組んだ1世の方々へのインタビューでは、移民当時の苦労話から今の沖縄に対する思い、若者へのメッセージまで様々な話をお聞きし、深い感銘を受けると同時に、自らの将来を決める上での大きなヒントを得た様子でした。このインタビューは、ウチナーンチュにとってアルゼンチンで最も尊敬すべき人物が、メッシでも、はたまたチェ・ゲバラでもなく、白人社会において幾多の困難を乗り越え、日系人の地位を確かなものとした偉大な先輩方であることに気付く機会にもなりました。

また、インタビュー同様、何物にも代え難い経験となったのが、同世代の若者達との交流です。毎日、沖留会や琉球國祭り太鼓のメンバーらがプログラムに同行し、時には楽しく、時には真剣な面持ちで参加者達に接していただき、若者間で固い友情が築かれました。“言葉は通じなくても心は通じ合う”、アルゼンチンの食卓でいうドウルセ・デ・レチェくらい定番のフレーズを改めて実感させられました。

今回、特筆しておきたいことは、各参加者の意欲的な態度です。みな本当に純粋で、やる気に満ちた学生ばかりでした。学んだことすべてを吸収しようとする彼らの姿勢や、現地の方々にとどんどん話しかけ交流の輪を広げていこうとする積極的な姿に、私自身、襟を正して彼らを支えなければと強く思われました。また、個人個人の行動だけでなく、10名のチームワークも大変素晴らしく、彼らが協力し合い作り上げた移民の劇を観た際は、その出来映えに思わず仕事を忘れ、魅入ってしまうほどでした。

一担当者として、アルゼンチンの国民的お菓子アルファホールくらい甘い見通しかもしれませんが、彼らのような優秀な人材が担うウチナーネットワークの未来は、非常に明るいと考えています。今回の参加者達には、沖縄と世界を舞台に、ウチナーネットワークの中心となり周囲を牽引しながら活躍してほしいと心から願っています。彼らからバトンを受け取った別の有望な若者がこの事業に参加し、リーダーに成長し、また次の若者にバトンを託すという、マテ茶のまわし飲みのようなサイクルが確立されれば、担当者としてこの上ない喜びです。

最後になりましたが、今回、沖縄からの参加者を快く受け入れてくださった在亜沖縄県人連合会の皆様、ホストファミリーの皆様、本当にありがとうございました。皆様との繋がりは、参加者達のかげがえのない財産となり、将来必ずや大きな花を咲かせることでしょう。皆様には、彼らをいつまでも、国旗にあしらわれた5月の太陽のように優しく、温かく見守り続けていただければ幸いです。

iMuchísimas gracias por todo!

文化観光スポーツ部交流推進課 玉代勢 興順

私は来沖する前に、前任のペルー国際交流員から「8月にアルゼンチンへ行く仕事がある」と聞きました。現地でのどのような活動をするのかと思いながら来沖し、担当者から、この海邦養秀ネットワーク構築事業の目的などについて説明を受けました。説明を聞き、参加する沖縄県の若者達にとって、海外に派遣され、移民について習い、現地の若者と交流できることは、見逃せないチャンスだと思いました。

アルゼンチンはスペイン語が公用語です。事前研修での私の仕事は、学生達にスペイン語を教えることでした。同じスペイン語といってもペルーのスペイン語とは違うので、何を教えればいいのか悩んだ末、現地で話されているできるだけ簡単なスペイン語の表現を教えました。学生達は私の講習を受け、スペイン語が完璧にできなくても簡単なコミュニケーションができれば大丈夫という様子に変わりました。頑張っている彼らを見て、この優秀な若者達と一緒にアルゼンチンに行けるのかと思い、私のテンションが上がりました。

出発日が来て、若者達のワクワクした顔から、その嬉しさが私にも伝わりました。アルゼンチンまでは約36時間かかりました。初めての長旅で学生達は少し疲れが見える様子でしたが、到着時に県人会の皆様のおかげで笑顔を取り戻しているのを見て、私も嬉しく思いました。

若者達は、2週間県系人の家にホームステイをしながら、沖縄移民の歴史や現地の文化について学びました。私が思うに、アルゼンチンの県系人は家族、ちょうでーです。沖縄の文化や習慣は、例えば三線を弾くこと等、アルゼンチンの県系人も共通していました。学生達はきっと感動したことでしょう。

10月、海邦養秀ネットワーク構築事業の報告会が開催されました。パネルディスカッションのスタイルで、学生達は元気よくこの事業に応募したきっかけや現地で驚いたことなどについて語りました。また、そのほかに、一人一人がこの事業の経験を踏まえ、これから何をしたいかということについて宣言をしました。その中には、「スペイン語を習いたい」「架け橋になり、海外のウチナーンチュとの繋がりをもっと強くしたい」などという宣言があり、言葉に対する不安があった当初の様子から、積極的にコミュニケーション力を得たいという自信を持った姿に変わっているのを見て、私の教えたスペイン語が少しは役に立ったのかなと嬉しく思いました。また、それと同時に、私もペルーと沖縄の繋がりを強くするため、日本語を向上させながら、ペルーの文化や習慣の紹介を頑張りたいと思いました。

最後に、在亜沖縄県人連合会、ホストファミリーの皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のお蔭で今年度の海邦養秀ネットワーク構築事業は大成功でした。学生達に素敵な思い出を作ってくれてありがとうございます。学生達が大事な絆を作ることができ、引率者の私もとても嬉しいです。それから、学生の皆さん。皆さんと出逢って素敵な経験ができて良かったです。また、皆さんの成長した姿を見ることができ、とても嬉しいです。

iMuchísimas gracias a todos por esta gran experiencia! ¡Espero verlos pronto!

(皆様、この素敵な機会を与えてくれて本当にありがとうございます！また会いましょう！)

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課 ファルコニー アレハンドラ

## 海邦養秀ネットワーク構築事業を通して

事前研修から本研修まで、沖縄県の方、沖縄アルゼンチン友好協会、ご父母の皆さまに温かく見送っていただき感謝いたします。

沖縄で活躍が期待される若者、地球の反対で活躍する若者達。彼らがウチナンチュという繋がりをとおして絆をいかに深めることができるのかが目指すところでした。

大学生5名、高校生5名 合計10名の参加者は、普段は学校も違えば、移民についての歴史や文化に触れる機会もあまりございません。年齢的にも高校1年生から大学6年次まで幅広いなかで、一人ひとりが挑戦と夢を持って本事業に参加してくれました。

事前研修をとおしてOBOGの皆様、県系人の皆様、講師の皆様に教わった学びをスポンジのように吸収してすぐに自分の言葉でアウトプットできる力、意見を聞き合い、歩み寄る姿勢。つながるコミュニケーション能力は沖縄とアルゼンチンをつなぐ頼もしい架け橋となりました。

また、参加者が皆で作上げた移民の劇とエイサーパフォーマンスは担当者としても感動させられました。

本研修では、在アルゼンチン沖縄県人連合会の皆様、受入を調整してくださり、私達を暖かく迎えてくれました。そこにどこかウチナンチュの気質を感じました。

沖縄から地球の裏側まで30時間を超える長いフライトや慣れない現地での生活もありましたが、一人ひとりが体調管理と安全に気を配り、大きな怪我やトラブルもなく、本研修を終えることができました。

アルゼンチンの皆様とは率先した交流姿勢が見られ、思いを受け取り持ち帰る事ができたと思います。

アンケートにも有りましたが、本事業を通して参加者10名が交流した人数は752名にもなり、これからの沖縄と世界をつなぐ成果がでております。

参加者の皆様、支えてくれたご父母の皆様、県系人の皆様、アルゼンチンの皆様、出逢ってくれたすべての皆様に感謝します。

この繋がりがより深く大きくなるよう祈っております。

株式会社 国際旅行社 新里 聡/諸見里 一寿



参加者の皆さんには本研修を通して海外で暮らすウチナーンチュとの「繋がり」を感じてもらいたいと願っていました。

アルゼンチンや移民への関心は研修を重ねるごとに高まり、そして参加者同士の仲間としての意識も深まってきました。最初の頃に抱いていた不安が解け、アルゼンチンのウチナーンチュのみなさんに会うことを楽しみとなりました。

行く側と受け入側が両想いとなり、沖縄で待機するスタッフもワクワクしました。そして2週間のアルゼンチン研修終え、帰国した参加者は想像以上にアルゼンチンが好きになっていました。

事後研修での再会時に、失恋したかのような寂しく落ちこんでしまっていた参加者が数人いたことがとても印象に残りました。それだけ、濃厚で意味のある時間を共に過ごし、ひとりひとりにとってアルゼンチンでの出会いや経験は大切なものとなりました。

彼らのその後の動きからもそのことが伺えます。アルゼンチンのウチナーンチュの想いを伝えたくて自分の学校で授業を行ったり、移民や世界のウチナーンチュに関するイベントや講座に周りの友人を誘って参加したり、事前研修で出会った県系人と今でも繋がったり、アルゼンチンから沖縄にやって来る研修生を迎え、共に行動をしたりしました。

彼らのこうした動きが嬉しく、素晴らしいパワーを秘めているように感じてなりません。

ここまで、参加者の成長が見られるのは、本研修にご協力して下さったOBOGの皆様、県系人の皆様、講師の皆様、在アルゼンチン県人連合会の皆様、沖留会の皆様、ホーストファミリーの皆様、支えてくれたご父母の皆様、そして出逢ったすべての皆様のおかげです。スタッフ一同より心から感謝致します。

NPO法人 沖縄NGOセンター 普久原 サオリ

